第１回図書館づくり市民の集い開催結果報告書

メインテーマ『新しい図書館で何がしたい？』

日　時　　令和元年８月３１日（土）　午後１時３０分から午後４時まで
場　所　　黒石公民館「多目的ホール」
参加者　　黒石市民　２７人
コーディネーター　弘前学院大学文学部准教授　生島　美和　氏
アドバイザー　　一般社団法人　青森県建築士会南黒支部　野呂　晋一　氏
　　（株）図書館流通センター東北支社次長　久保　鉄也　氏
次　第
　１　開　　会
　２　コーディネーターあいさつ
　３　配布資料の説明（黒石市立図書館整備について　ほか）
　４　ワークショップの進め方について
　５　グループワーク
　６　発表・まとめ
　７　御礼あいさつ
　８　閉　　会

○主な内容

先ず、市から市立図書館整備事業の概要、スポカルイン黒石図書コーナーや県内図書館の状況、図書館法などの情報提供を行った後、コーディネーターからワークショップの進め方をレクチャーしていただきました。

次に、参加者がグループ（よされ、こみせ、りんご、ねぷた、こけしの５グループ）に分かれて、意見を出し合うグループワークを行い、その後、各グループごとに発表して意見を共有し、コーディネーター、アドバイザーからまとめの講評をいただきました。

市では今回出たご意見を、今後の図書館づくりの参考にさせていただきます。

次ページからは、グループ発表と講評の内容です。

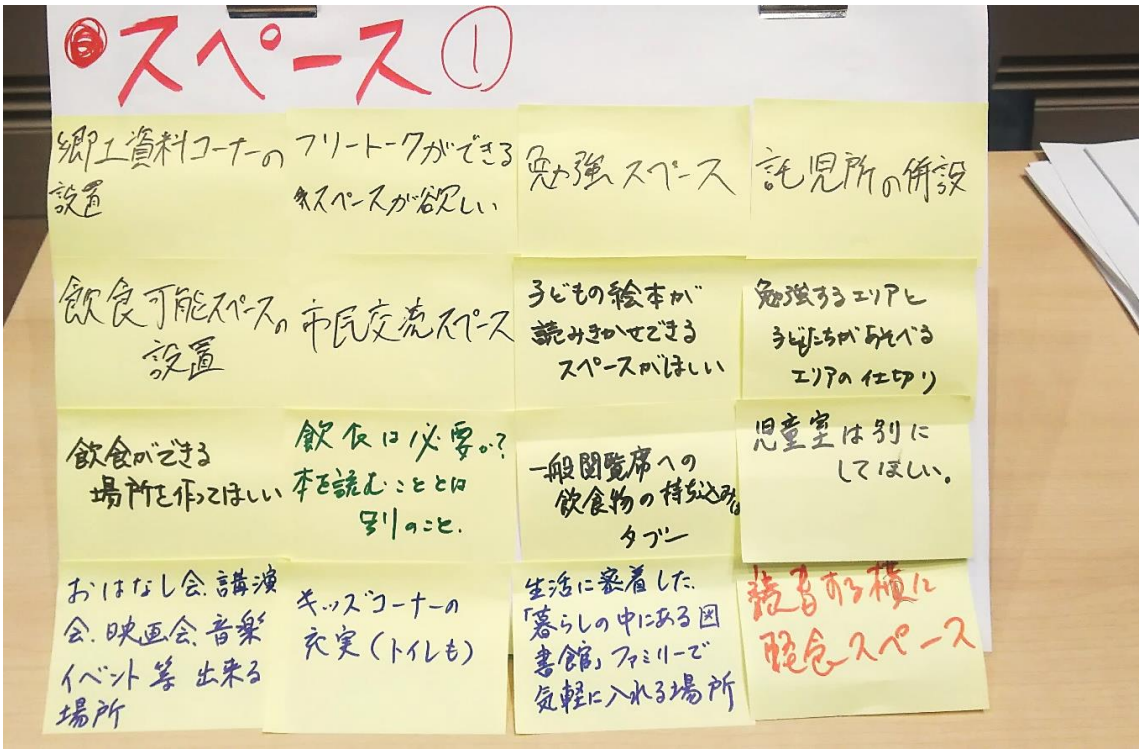
グループワーク

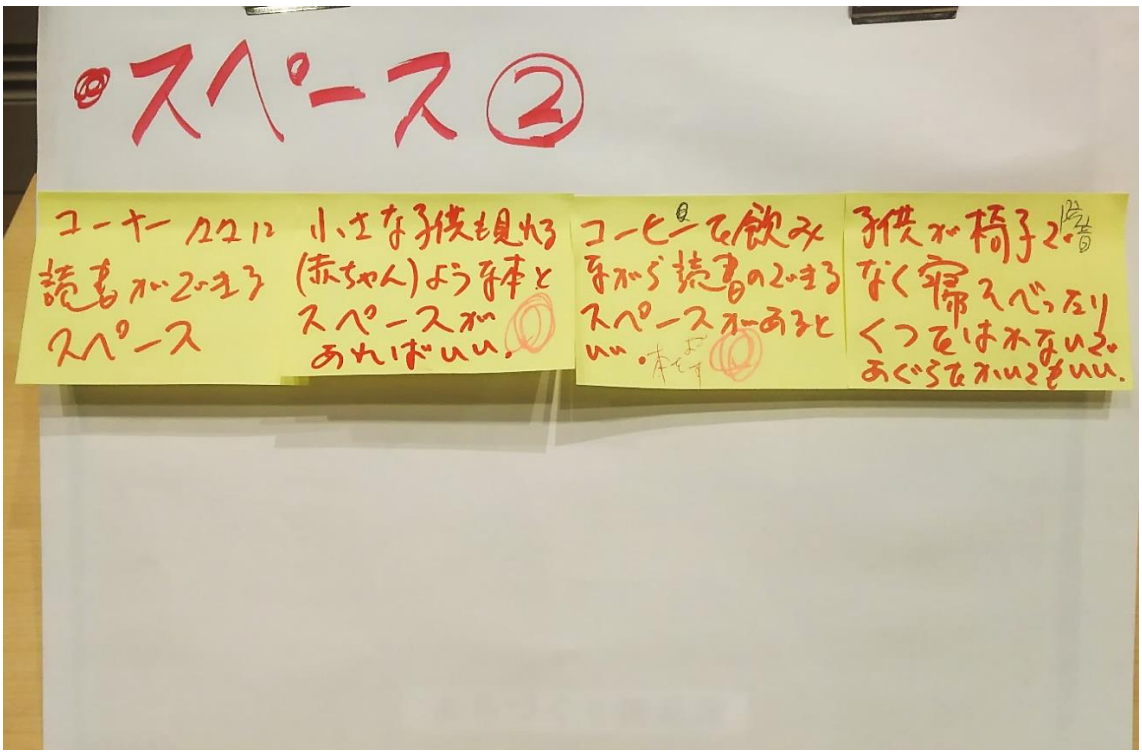
グループ発表

○グループ発表

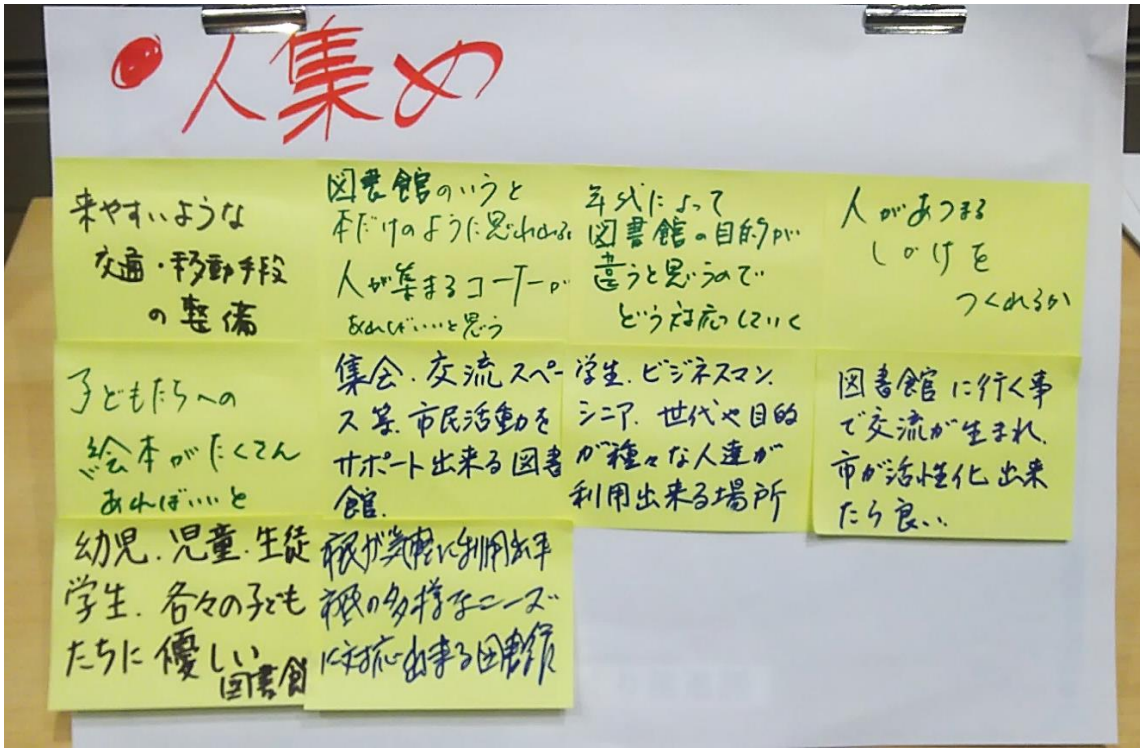
①よされグループ

（1）スペース

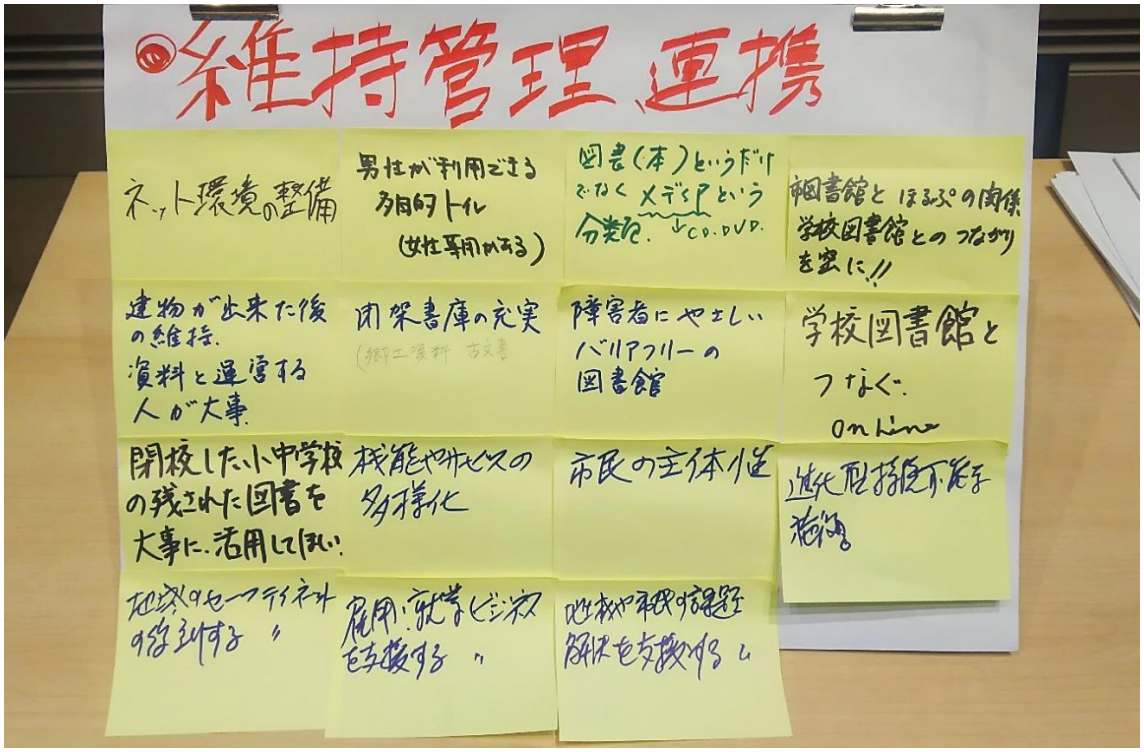




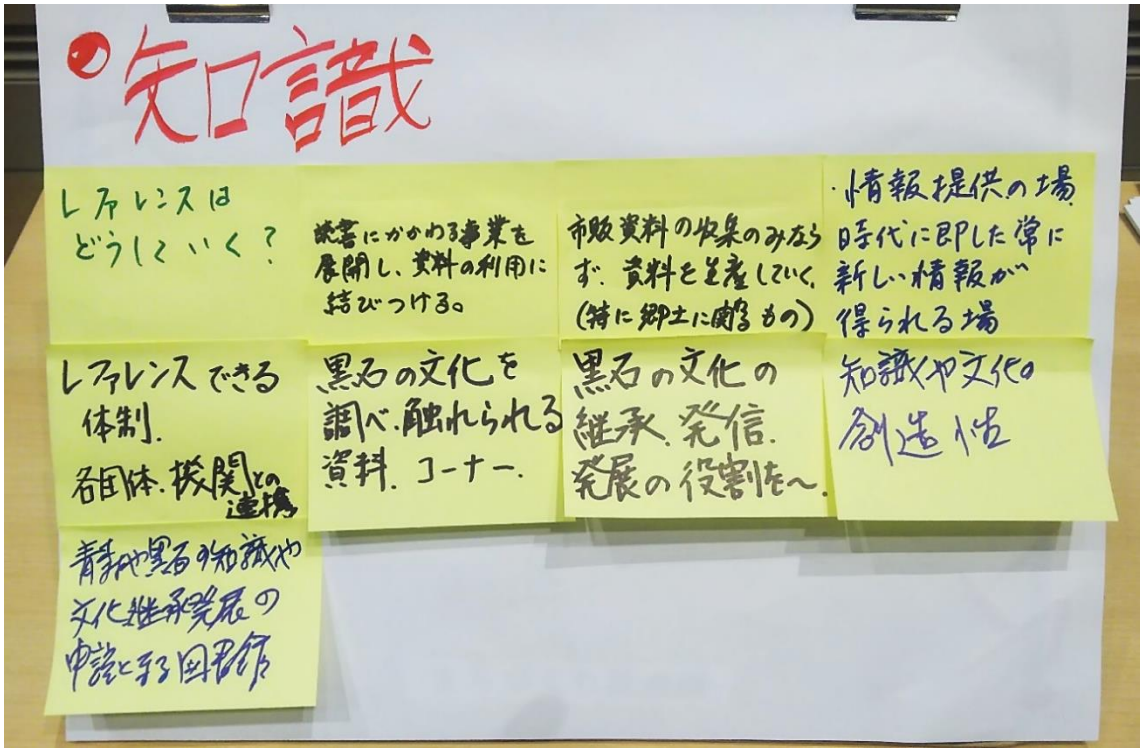
（２）人集め



（３）維持管理、連携



（４）知識



【よされグループ発表】

図書館につきまして、大きく４つに分類させていただきました。

１つ目として、「スペース」です。例えば、市民活動が行えるようなスペース。お話し会だったり、交流会が出来るようなスペース。キッズコーナーのスペース。あとは、談話が出来るスペース。飲食のスペースなど。スペース・機能の部分について取りまとめさせていただきました。

この中で、一番意見が出てきたのが飲食についてです。本は汚れると借りたものは弁償ということもあって、飲食しながら本を読むことがいいのかという話も少々出ました。ただ、本が好きな方はコーヒーを飲みながら本を読むのもいいんだよねという意見もあって、その辺り、飲みながら読めるのと、飲んだりしてはいけないものとを分けたりすることが出来るのか、という意見が出されております。

２つ目は、「人が集る」機能をもった図書館であって欲しいというものです。ファミリーで来やすい環境。例えば、おじいちゃん・おばあちゃんは、歴史的な本がみたい。お父さん・お母さんは、仕事の本がみたい。子ども達は、絵本がみたい。それぞれ違う目的で図書館に来ます。その方々が、みんな一緒に図書館に来て目的のものを見れるような環境が出来ればいいのかなというところ。

あとは、人が集って交流出来るようなスペースが必要なんじゃないか。加えて、障害者の方でも来やすいような部分。ユニバーサルデザインだったり、バリアフリーが整備された図書館が必要なんじゃないかとういう部分が意見としてまとめております。

その他、新聞について、家では１、２社しか取ることが出来ないので、色んな新聞みたいよねとか。雑誌がみたいよね。弘前であれば、何十もスポーツ誌とか様々な文化の雑誌も揃ってるので、それらもあればいいよね、というような意見も重ねておきます。

３つ目としては、「維持管理、連携」の部分です。市立図書館と銘打つにあたり、ほるぷ子ども館だったり、４月から始まる小・中学校の統廃合に基づく各学校の図書室の蔵書もあり、この部分を一括で管理出来る体制が必要なのではないか。若しくは、検索出来るようなデータベース化を進めることによって、この蔵書の管理をしていくことが必要なのではないかという意見が出されました。

最後に、４つ目「知識」の向上に向けた機能についてです。図書館は、先程の連携等と繋がりがあるんですが、郷土や歴史の資料を管理出来る体制の整った図書館が必要なのではないかということです。１つの意見として、現在の図書コーナーでは手狭なスペースで見るしか出来ないところを、ある程度広いところで歴史的なものを閲覧出来る、若しくは、本も数多く管理して色んなものを調べられるような機能が必要なんじゃないかということでした。

その他、やはり１番は、各市民の方々が知識向上するために、ある程度の蔵書の管理・整理が出来るような環境を整えていく必要があるのではないか、ということでした。

【講評：生島准教授】

様々な意見が出てきたと思いますが、知識って、凄く大事だと思います。本当は図書館の根幹に関わるところですけれども、先ずは多様な本がある。それだけじゃなく、黒石の郷土の資料がきちんとあって、それを活用出来るだけの環境だとか整理がされている。そして、それに対しアシスト出来るような人的資源というのも是非必要なんじゃないかということも出ていました。

学校との連携、ほるぷ図書館との連携、特に黒石の場合だと学校が合併・統合されたりしていますから、そういうところの書籍だとかネットワークも求められてくるんじゃないかと思います。

あと、人集めですね。本当に機能があれば人を集めます。じゃあ、どんなことが出来るかといったときに、本を通じて人と繋がるというところで、人が集まるコーナーだとか、交流スペースの部分ですね。

あと、様々な人が来れるように、ビジネスマンもそうだし、親、子ども、おじいちゃん・おばあちゃんの３世代もそうですし、障害をもっている人たち、高齢者、こういう視点というのも、本とかだけじゃなくて施設構造の問題として、きっと大事な着眼点になってきていると思います。

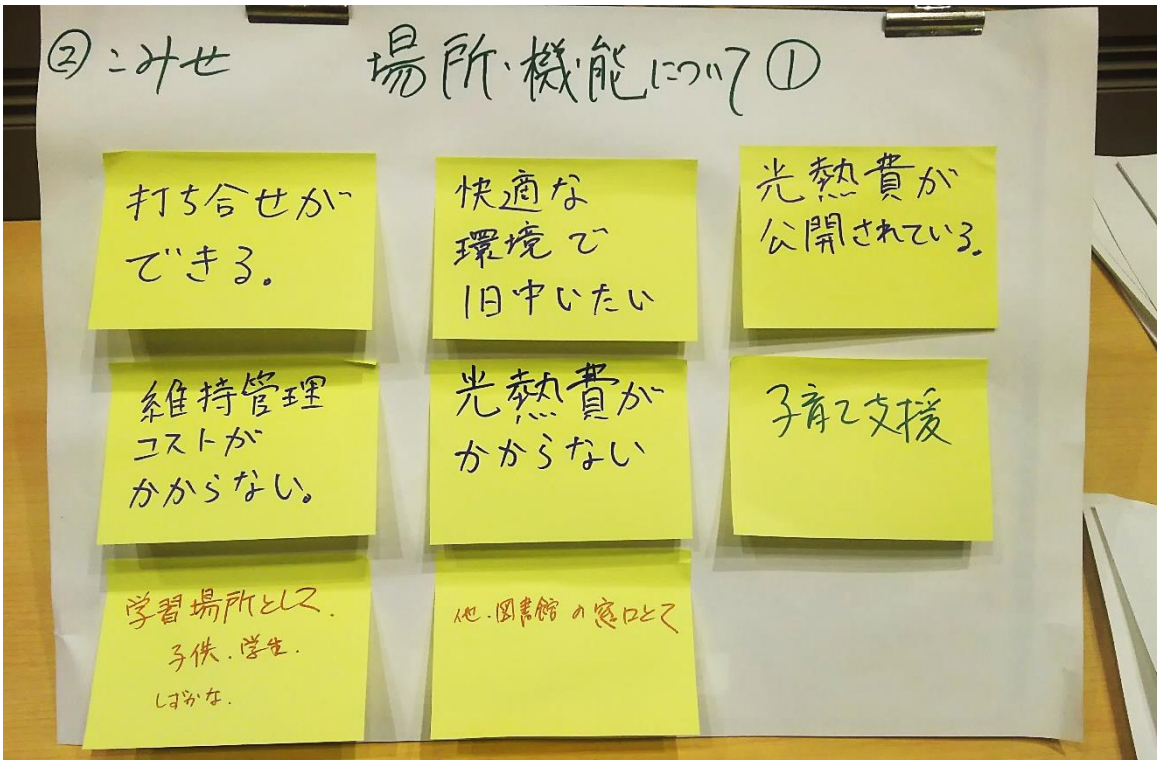
もう１つ、飲食について、他のグループでも様々出ていたんですけれども、こちらのグループは飲食の是非が話題になっていたところが特徴だったと思います。やっぱり飲みながら読みたいよね、というのと、でも読むのに本当に必要なのか、本が汚れたらどうしよう、そういうのって凄く大事だと思うんです。

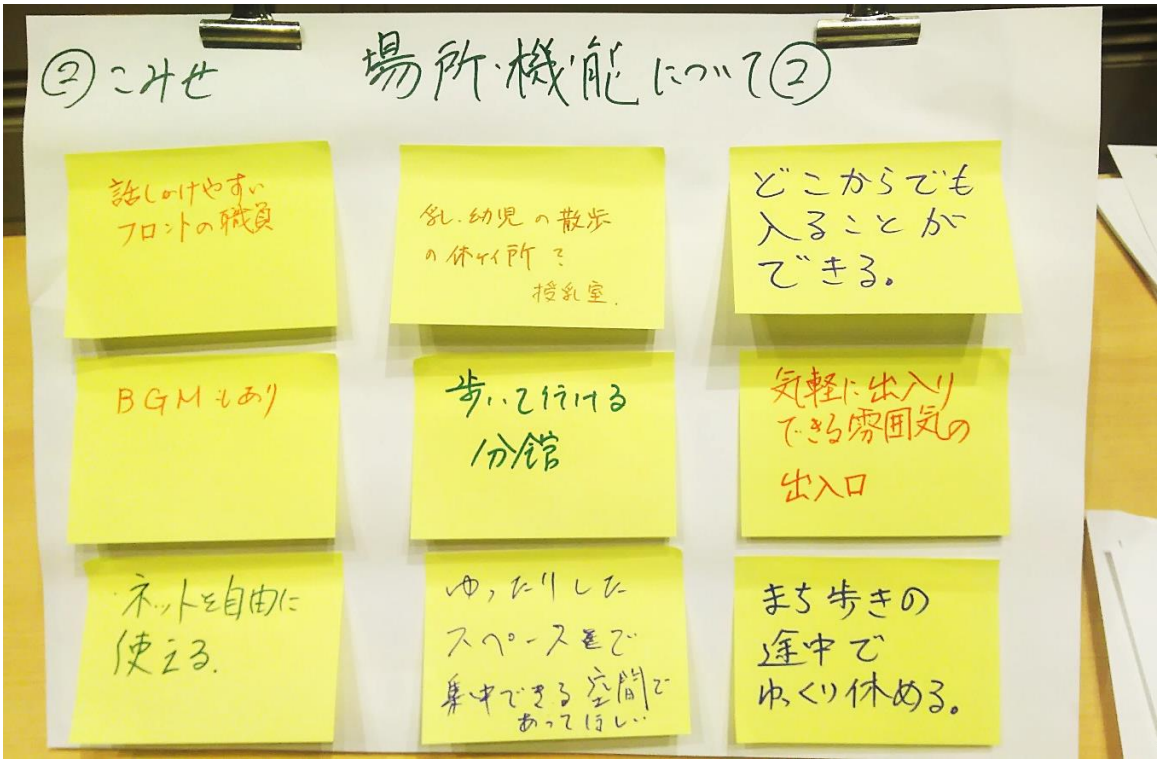
これをどうしていくかっていうのは、空間だけじゃなくシステムとかルールの問題になってきますので、図書館が出来上がった後どう活用していくか、ルールもそうだし、もう１つは、公共心を養うという意味で、子ども達も大人でも、みんなで使うものを、いかにみんなで共有していくか。この視点が、図書館の中で市民を育むということにも繋がってくると思います。

本によって飲める飲めないというのを考えるのもあるかもしれないし、全国の図書館には、キャップの付いている飲み物だったら飲んでもいいよ、というふうに分けてるところもあったりもしますし。空間で分けてるところもありますけど、その辺もどうしていくか、また黒石で考えていけるところじゃないかと思います。ありがとうございました。

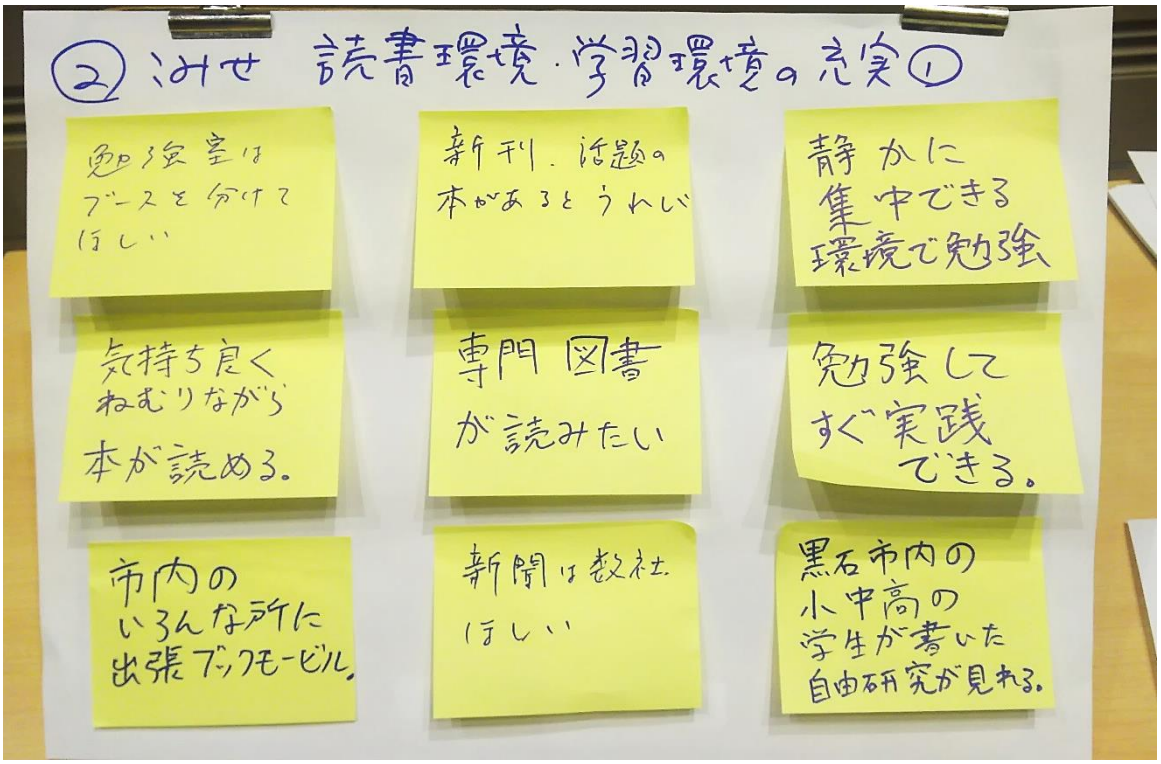
②こみせグループ

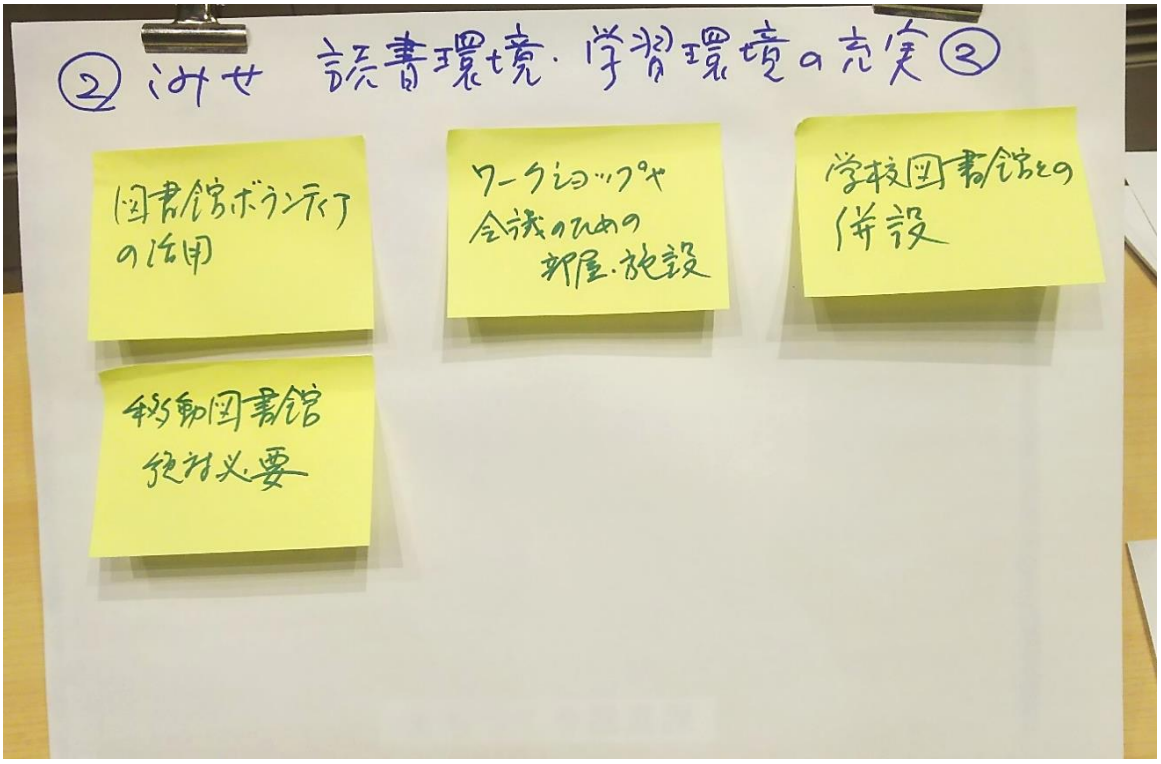
（1）場所・機能について



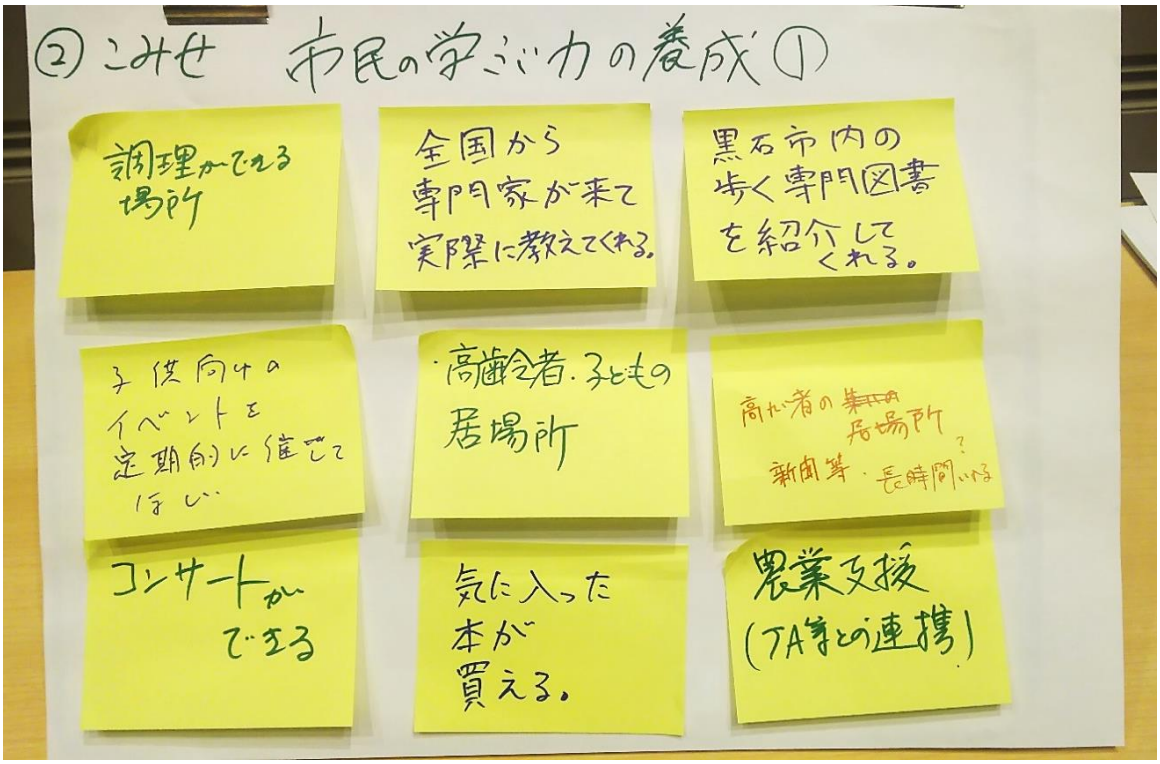


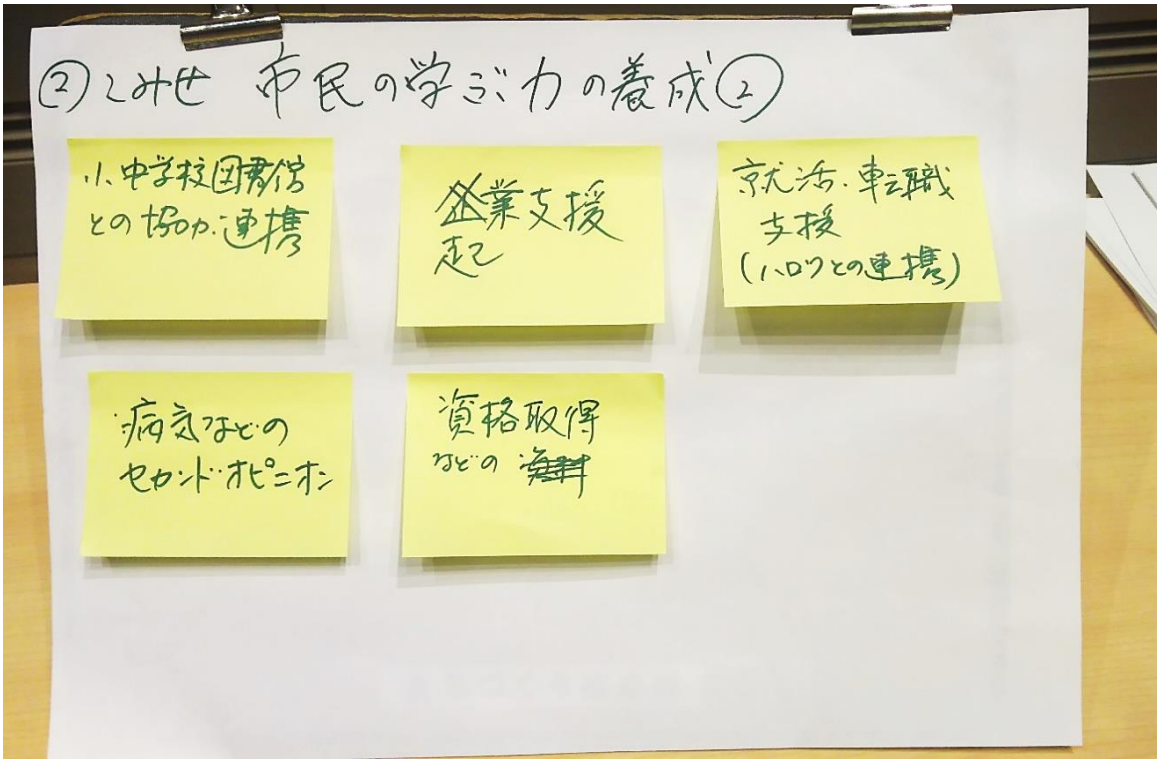
（２）読書環境・学習環境の充実



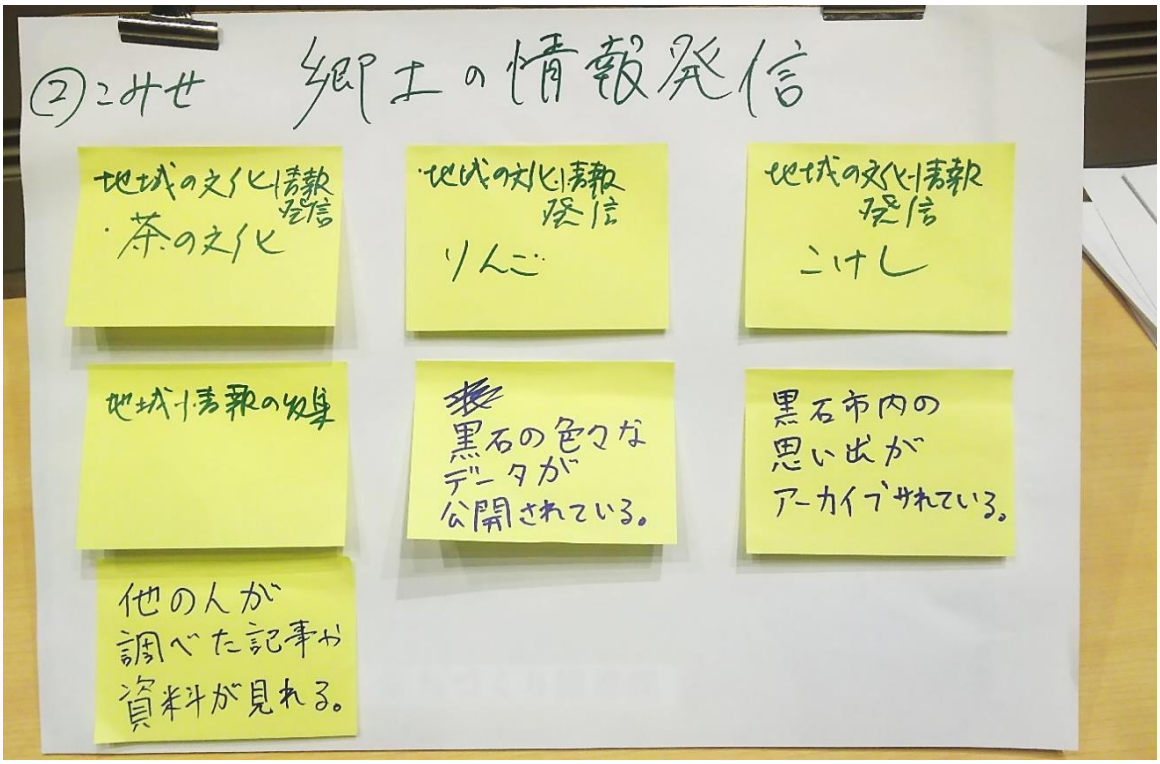


（３）市民の学ぶ力の養成

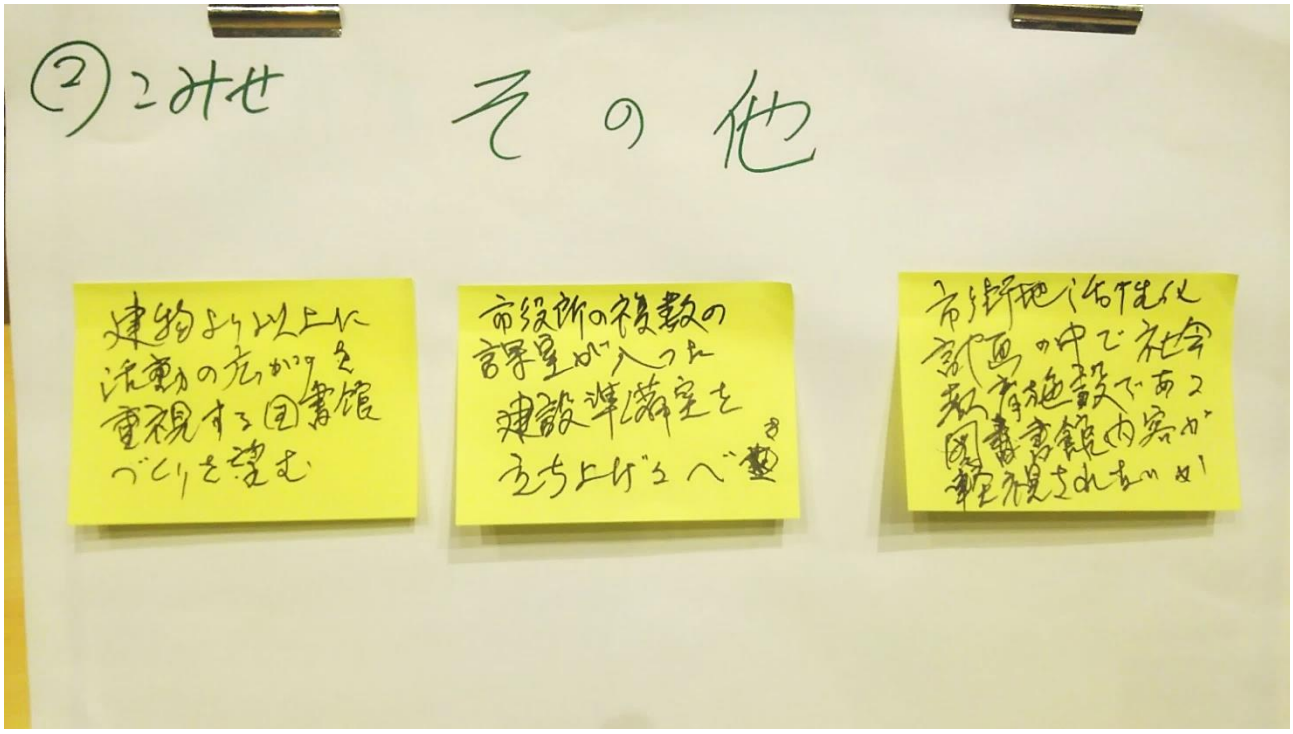

②こみせ　市民の学ぶ力の養成①
調理ができる場所
全国から専門家が来て実際に教えてくれる。
黒石市内の歩く専門図書を紹介してくれる。
子供向けのイベントを定期的に催してほしい
・高齢者・子どもの居場所
高齢者の居場所
新聞等・長時間いる
コンサートができる
気に入った本が買える。
農業支援（JA等との連携）


②こみせ　市民の学ぶ力の養成②
小、中学校図書館との協力・連携
農業支援
就活・転職支援（ハローワークとの連携）
・病気などのセカンドオピニオン
資格取得などの

（４）郷土の情報発信



（５）その他



【こみせグループ発表】

全部で５つのテーマに分けて意見を整理いたしました。

先ず１つ目は「場所・機能について」ということで、抜粋しますと、打ち合わせが出来るスペースがあったらいいのではということ、１日中居やすいスペースがあって欲しいということ。あとは、ネット環境が充実して欲しい。気軽に話しかけやすい。受付のところとかですね。気軽に相談しやすい雰囲気であって欲しいとか。まとめると、全体的な図書館に対するハードルをちょっと下げた方がいいのではないかという感じの意見だと思います。

ただ、そういうサービスをするにあたって、光熱水費だとか維持管理費がかかりすぎて、サービスの質が低下しないようにしなきゃいけないという意見も出ました。

次に２つ目の「読書環境・学習環境の充実」ということで、抜粋しますと、先程のグループでも出たんですけれども、新聞が数社欲しいということ、専門図書が欲しいということ。あとは、勉強したことが活かせる場所があればいいということ。小学生の自由研究とかが貼り出されて、市民の皆さんに見せればいいのではないかという意見もありました。

３つ目が「市民の学ぶ力の養成」ということで。高齢者等の居場所となるような場所があることと、就活や資格の取得、起業支援だったりとか、生涯学習に関わる意見が出ていたので、こういうふうに意見をまとめました。

４つ目が「郷土の情報発信」ということで。黒石の文化、こけしだったり、りんごだったり、お茶だったり。そういうものの情報発信になる場になればいいのではないかという意見もありました。

あとは、他の人が調べた記事が資料として見られるような、例えば、あることについて調べたときに、同じようなことを調べた他の人は、こういう資料もみているよとか。

最後、ちょっとお題が難しかったので、「その他」ということで意見を分類したんですけれども、中心市街地活性化の中で社会教育施設である図書館の内容が軽視されないか心配という意見もあって、図書館はあくまで社会教育施設であることを忘れちゃいけないよ、というような意見もありました。

【講評：生島准教授】

こちらも様々な意見がみえてきて、こみせグループだからなおさらなのかもですけど、この中心市街地、こみせの中で、ちゃんと図書館を位置付けていかなきゃいけないという視点が、グループの名前のとおり出ているようなところです。

特に社会教育施設であることが本当に大事なところなんですけど、社会教育は人が繋がって、みんなで学んでいく。様々な繋がりの中で、娯楽も考えられるし、癒しということでも繋がってきますから、非常に緩く考えていただいて、でもやっぱり学べる場所ということ。繋がりながら学べるというところも凄く大事な知恵を出していただいていると思います。

あと、場所・機能というところで、ネット環境というのが大事だと。今、本当にベーシックなものになっています。子ども達も学校の中でネットを使っていくことだって有り得るので、それを使いこなしていくということも、本当に必要になってくるかと思います。

あと、図書館を使うハードルを下げる。これは様々な形で出来ると思うんですね。施設の構造の

問題でもあるし、レファレンスを充実させていく、声をかけやすい職員にぜひ居て欲しいというようなこともあると思いますので、司書とかそういう人達の機能で、場合によっては、さっきちょっと見えたのですが、ボランティアの人達がそういう形で関わることで、図書館と市民とを繋いでいく人達も重要になってくるのかなと思います。

あとは、学習が活かせる場所。学習したことが見える場所という意味で、子ども達の自由研究が貼れる場所、掲示のスペースがあってもいい、ということもきっと有り得るんだろうと思います。

次の学ぶ力を活かす。何だろうと私思ったんですけど、「調理が出来る場所」って、どういう文脈で出てきたんでしょうか。ちょっとこれ面白いなあ。

（こみせグループ参加者）

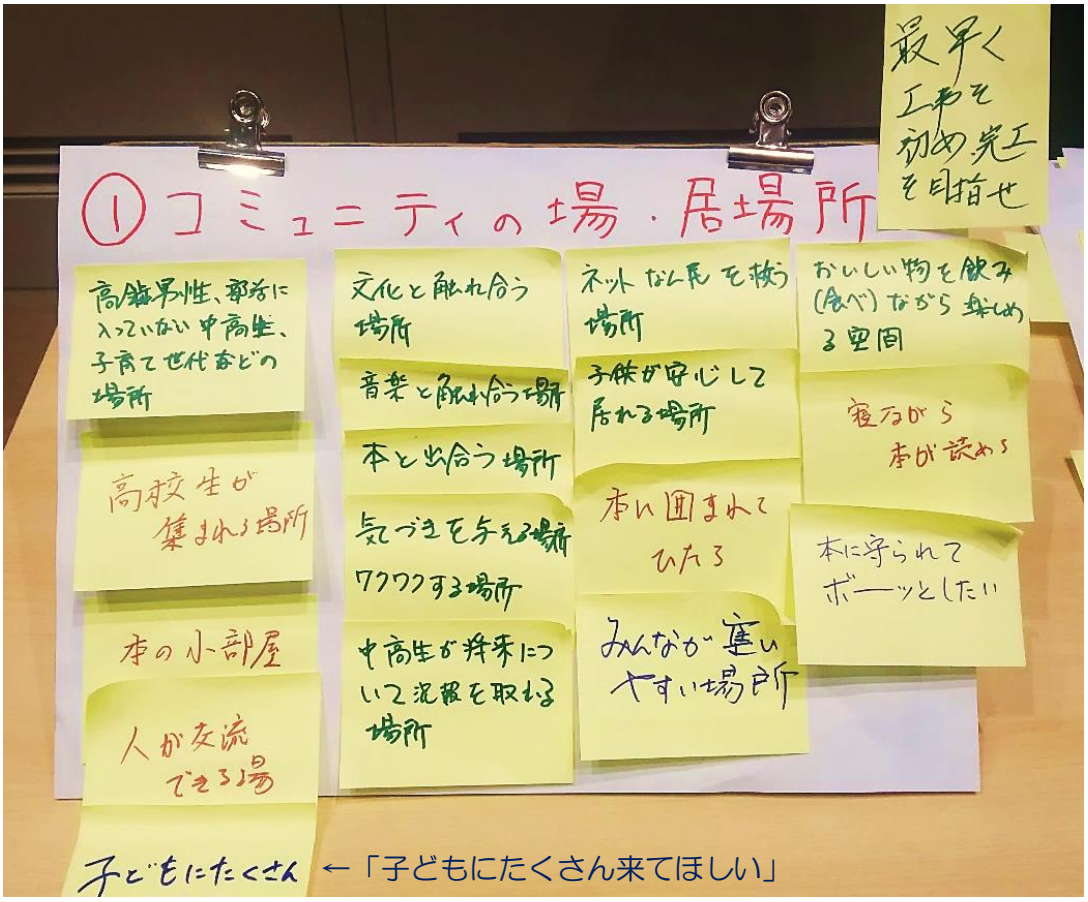
紫波の図書館で、絵本の中に出てくるお菓子とかそういうものを作ったりとかあるんです。黒石も様々な郷土料理がありますし、本の中にでてくるものとか、郷土料理。そういったものをやりましょうというのが面白いと思います。

（生島准教授）

わかりました。なるほど、そうですよね。長野県では、図書館で本と一緒に米粉のパン焼き機を貸してるというところも一時期ありましたけれども。そうやって実際に実学に活かしていく、そういう情報の拠点としての図書館ということだと思いますが、恐らくこれからの発表のなかにもありますけど。どうもありがとうございました。

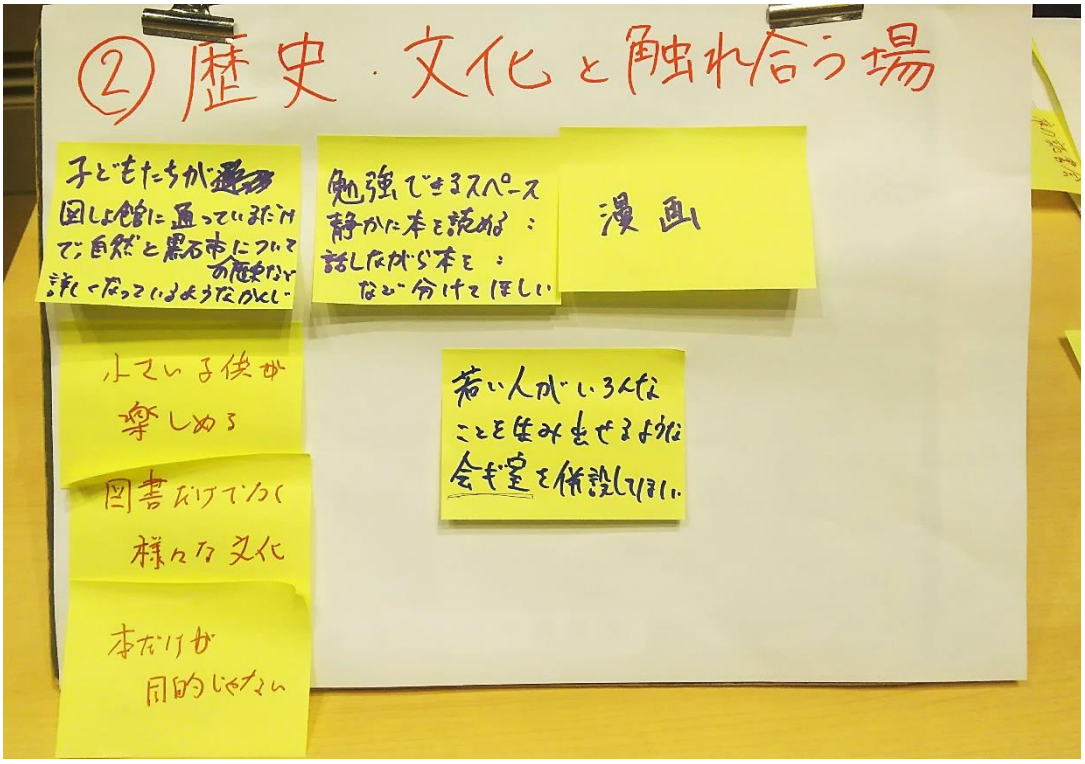
③りんごグループ

（1）コミュニティの場・居場所

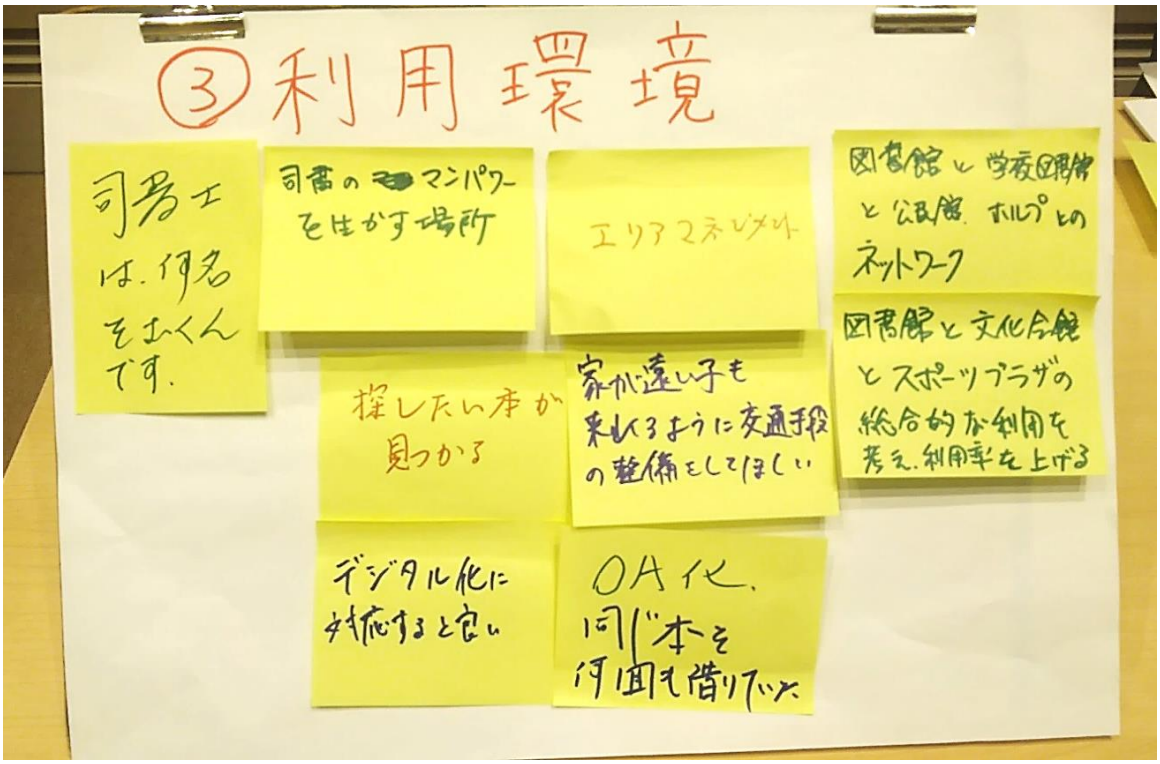


←「子どもにたくさん来てほしい」

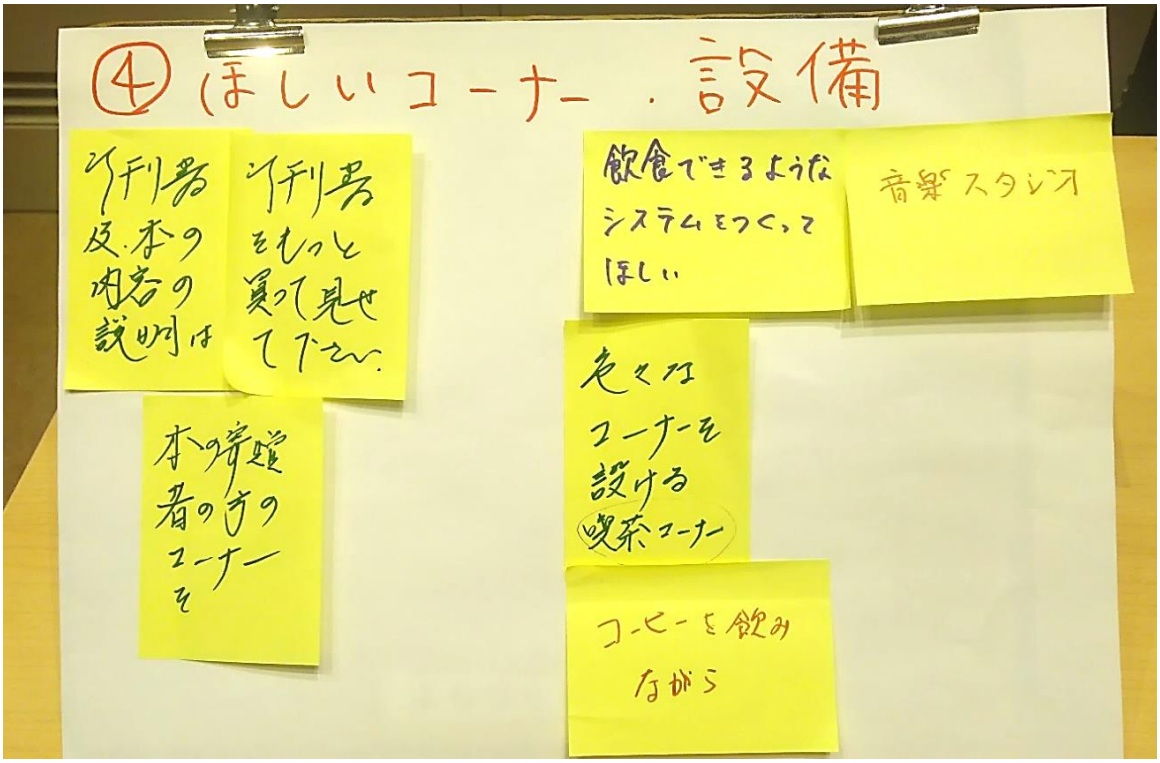
（2）歴史・文化と触れ合う場

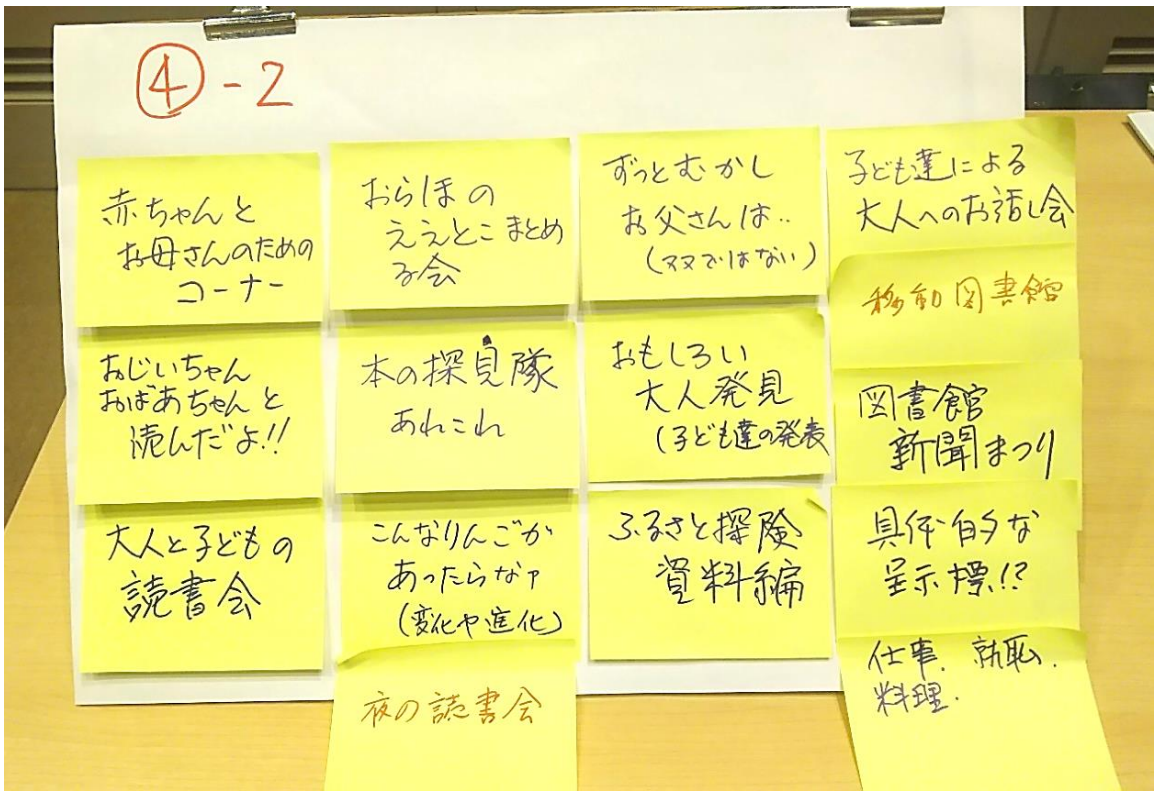


（３）利用環境



（４）ほしいコーナー・設備





【りんごグループ発表】

最初に、黒石に図書館がつくられるということで、途中で頓挫することなく、完成を目指して欲しいという意見がありましたが、出た意見を４つに分類させていただきました。

先ず「コミュニティーの場・居場所にしたい」ということで、高校生が集れる場所、高齢男性や部活に入っていない中高生、子育て世代のお母さん達が集れる場所。あとは、本と出合う場所、図書館は気づきを与える場所、ワクワクする場所にしたいというようなことや、中高生が将来について情報を取る場所。あと、本に囲まれる場所、図書館は本を読むだけでなく、本に囲まれてボーッとしたい、という場所にしたい。というのと、皆が色んな人が皆が集いやすい場所にしたいという様々な意見が出ました。

そして、居場所の他に歴史・文化と触れ合う場ということで、子ども達の郷土愛を深めるため、子ども達が図書館に通える場所にしたい。小さい子どもが楽しめるように、本だけでなく、漫画なども置いて子ども達も来やすい場にしたいという意見もありました。

あと、勉強出来るスペースや静かに本を読める場所、話しながら本を読める場所など、スペースを分けて欲しいなど意見がありましたが、若い世代の人が図書館に来て、本を読んで黒石の郷土・歴史・文化を学べる場にしたいという意見が多数ありました。

そして、図書館の「利用環境」についてなんですけれども、黒石は司書の方がいらっしゃらないとういうことで、先ず司書の方を置いて欲しいという意見、司書の人の力を活かせる場所。そして、司書の方がいることによって探したい本が見つかるのではないかという意見などがあり、あとは、図書館は今、デジタル化が進んでいるということで、デジタル化に対応したら良いのではないでしょうかということや、家が遠い子ども達も来やすいように、交通手段の整備をして欲しいというこ

とで、図書館行きのバスの整備してもらって、送り迎えすることによって、家が遠い子ども達でも来やすいような環境をつくればいいのではないかとういう意見がありました。

あとは、図書館と周りの学校図書、公民館などのネットワークも利用して、図書館の利用率をあげればよいのではないかという意見がありました。

そして最後に「欲しいコーナー・設備」についてが、たくさんの意見があって２枚になったんですけれども。先ず、新刊図書のコーナーがあればよいということ。

多くあったのは、やはり喫茶コーナーがあればいい。飲食出来る場所ですね。受験生がいる場合、ちょっと小腹が空いたなあとかなれば、近くにあれば、食べてすぐまた勉強に戻れるということが出来るのではないかという意見がありました。楽しく食べて・飲んで、楽しめる場所がいいんじゃないかなという意見もありました。

あと、子育て世代のお母さん達の居場所にもなればいいということで、赤ちゃんとお母さんのためのコーナーや、大人と子どもが一緒に楽しめる読書会なども開ければいいということで多数の意見がこちらに出ていますが、仕事があり夜の読書会を開らいたらいいなどや、面白い大人発見などがありますが、あとは子ども達が本を選んで大人に読み聞かせるという、大人へのお話会という意見もありました。あと、図書館の新聞を作ったらいいという意見などありました。

最後になりますが、図書館ということに狭まらせず、自由度が高い図書館、多様な使い方をしてみんなで楽しく、みんなで育てていける図書館にしたらよいのではないかということで、意見をまとめさせていただきました。

【講評：生島准教授】

念願の、悲願の図書館。ぜひ頓挫しないで実現させて欲しいというのは、本当に市民の方の願いだと思うのでね、本当に実現していけたらいいなと思うんです。

ここで、ワクワク出来るとか、気づきがある、その感情的なものを生み出そうとする力、そういうことが出せるような図書館というところ。それが人と繋がっていったり、情報を獲得しようとしていく場所になるんだということで、コミュニティーという言葉が出て来ていましたけれど、非常に大事な視点なんじゃないかと思います。

それから、歴史・文化というところで、漫画本を置いて欲しいというようなお話もここにも出てきていますし、小さい子どもが楽しめるということ。若い人達が色んなことを生み出せる、本当に大事な言葉だと思います。クリエイティブ、想像の泉というところで、大事なキーワードになってくるんじゃないかと思います。

ここに高齢者の方も多く見られるかと思うんですけど、子ども達ももちろん大事ですけど、高齢者の方達も過ごせる場所も大事だと思います。

最後に出てきますけど、お母さんと子ども達のための場所ももちろん大事だと思うんだけど、お父さんも大事だっていうことです。特に、中高年のリタイア組の男性に、居る場所が絶対必要なんだと。本当にそうなんですよ。この方達の社会参加のきっかけって、なかなか生み出せないっていうのが色んな自治体にあるんですけれども。是非、図書館でそういう起爆剤になるっていうことも、凄く大事な視点ではないかなというふうに思います。

あと、利用環境の司書の部分、建物だけじゃなくて、市役所に是非叶えていただきたい。本当に司書が大事なんだっていうこと。司書の人達のマンパワーを活かせられる場所ということですよね。

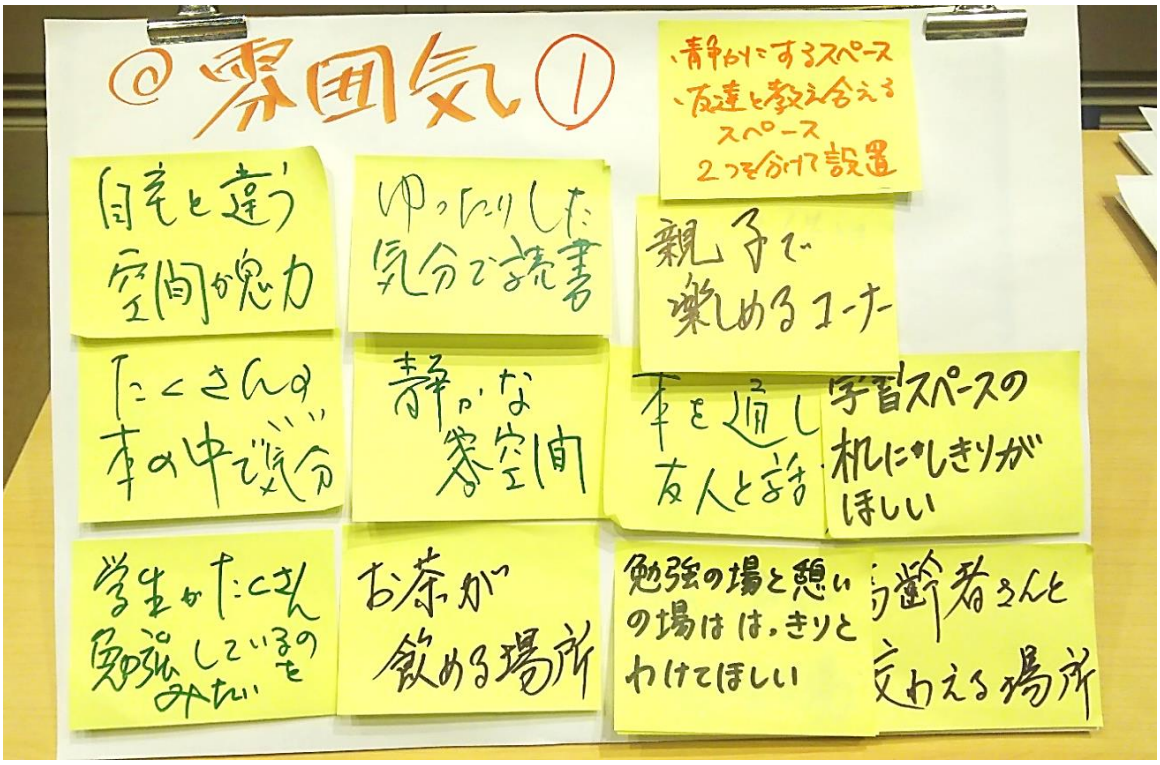
これを深く掘り下げていくと、司書の人達がちゃんとスキルアップできる場所っていうことだと思いますので。研修を受けて、より良い図書館を生み出していけるような、司書もどんどん発掘とスキルアップとで、そのポジションが一番というのを、是非市役所に声をあげていただくことが大事じゃないかなって思っています。

デジタル化への対応もそうですし、様々なコーナー、新刊本も大事だということ。音楽スタジオって面白いですけれども。これもさっきの様々な施設の共有のところでも実現していける、そういうシステムの部分も開拓していけるんじゃないかと思います。

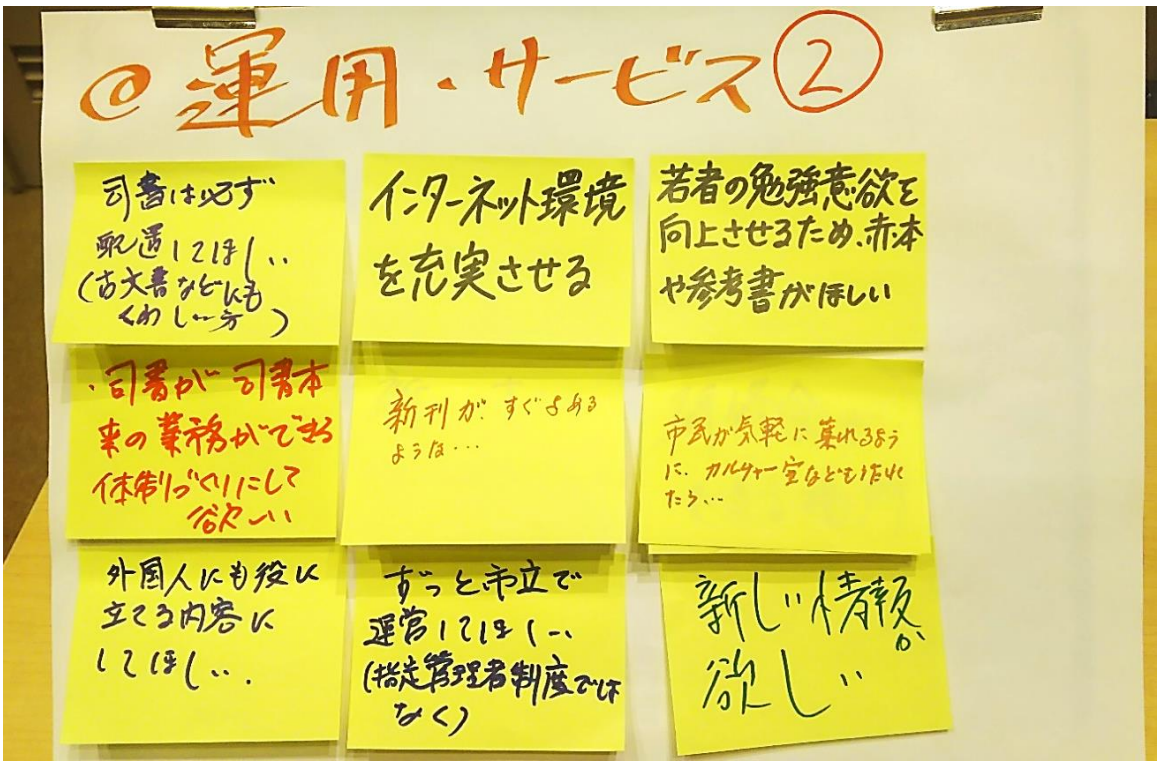
あと、様々な事業のアイデアというのが出てきていますので、直ぐ建物に反映するっていう訳じゃなくて、これが出来る、開館後若しくは開館前からこれは走り出すっていうことも有り得るかもしれませんので。是非皆さん、これはうちでももう出来るんじゃないかというのを、やり始めてもらってもいいかもしれないですね。アイデアとして持ち帰っていただいてもいいと思います。どうもありがとうございました。

④ねぷたグループ

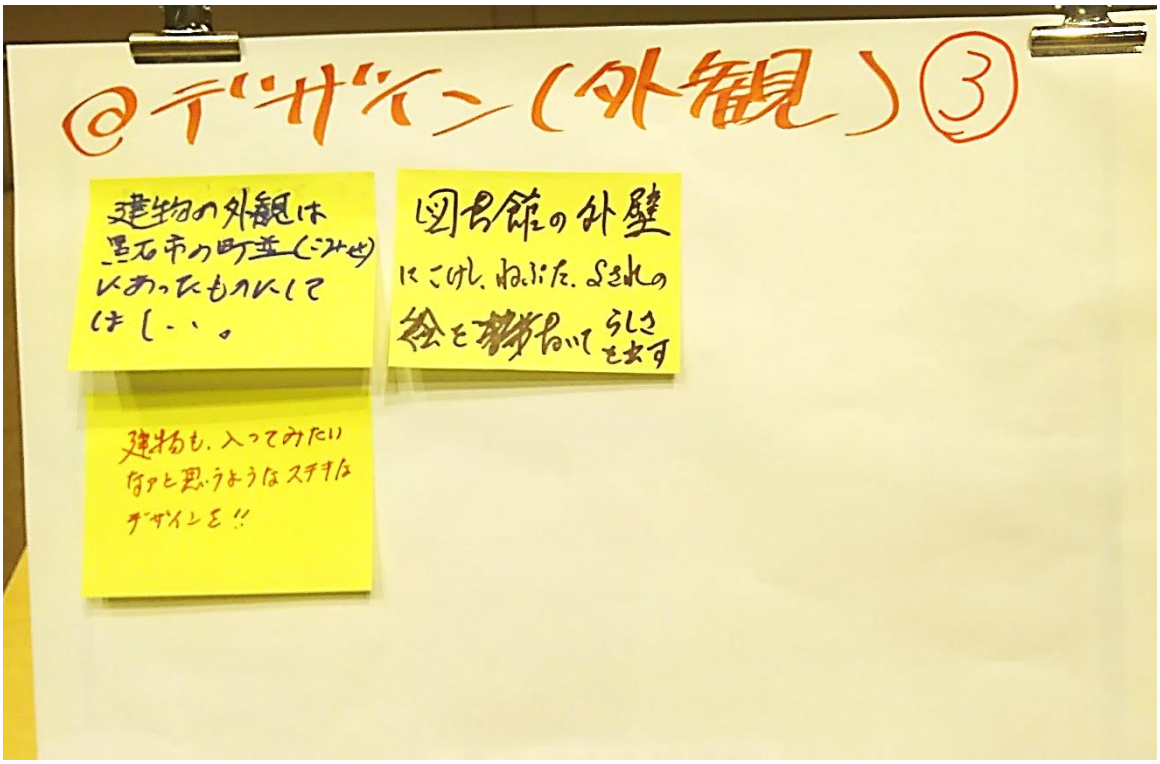
（1）雰囲気

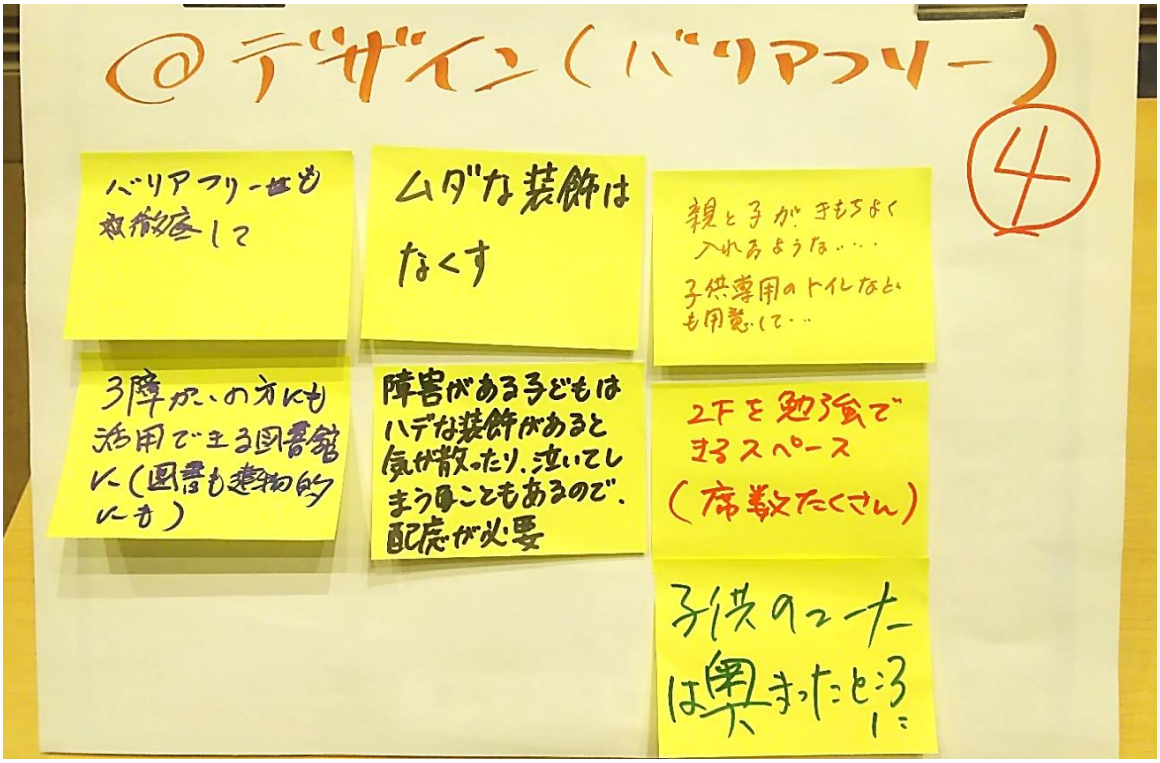


（2）運用・サービス

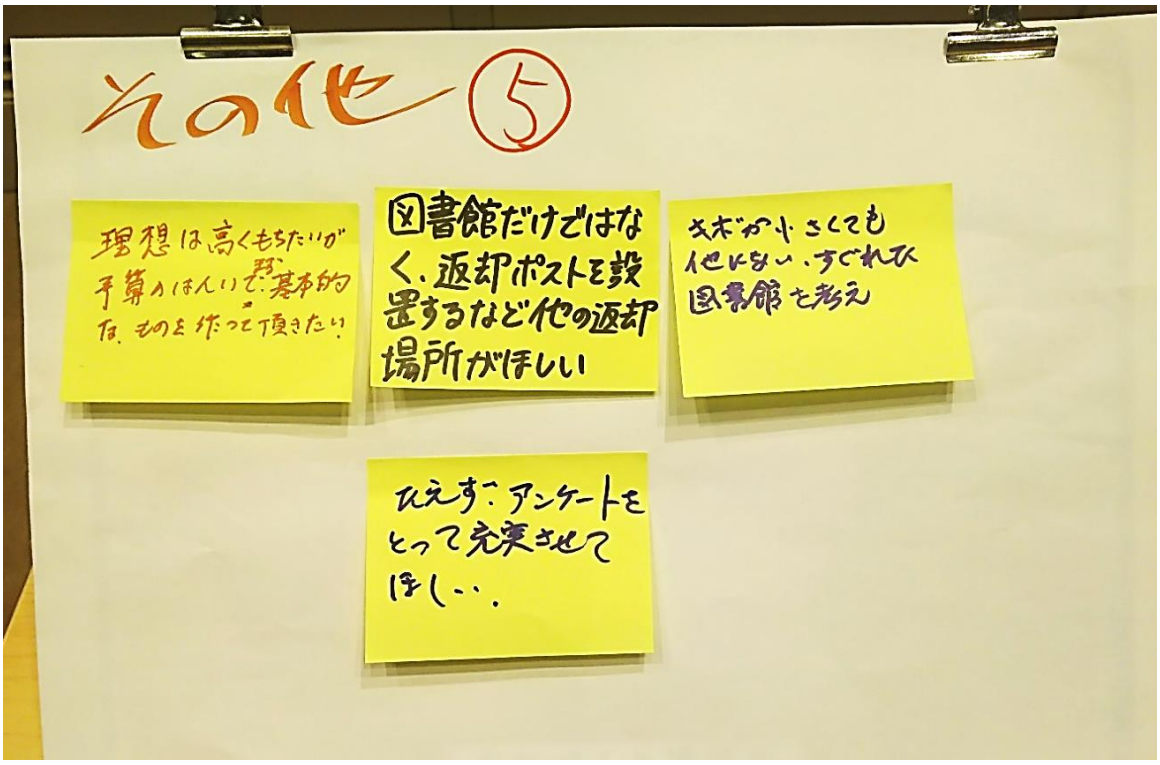


（3）デザイン


@デザイン（外観）③
建物の外観は
黒石市の町並（こみせ）
にあったものにして
ほしい。
図書館の外壁
にこけし、ねぶた、ふきれの
絵を描いてらしさを出す
建物も、入ってみたい
なァと思うようなステキな
デザインを!!


@デザイン（バリアフリー）④
バリアフリーも
徹底して
ムダな装飾は
なくす
親と子がゆったりと
入れるような……
子供専用のトイレなども
用意して…
障がいの方にも
活用できる図書館
に（図書も建物的
にも）
障害がある子どもは
ハデな装飾があると
気が散ったり、泣いてし
まうこともあるので、
配慮が必要
2Fを勉強で
きるスペース
（席数たくさん）
子供のコーナー
は奥まったところに

（4）その他



【ねぷたグループ発表】

自分達の班では４つに分類いたしました。

先ず「雰囲気」なんですけれど、自宅と違う、本がたくさん、学生がたくさん勉強している、ゆったりとした気分、静かな空間など、図書館に来たっていう実感を味わいたいという意見が多かったです。

それだけではなく、親子で楽しめるコーナーや、勉強をしっかりしたい。また、高齢者とかと交じわるコーナーが欲しいなど、図書館で本を読むだけでなく、友人とお茶したり、コミュニケーションをとったり、また勉強したりなど、様々な目的で来る図書館にしたいなという意見が多かったです。

次に「運用・サービス」なんですけれど、図書館なので司書は必ず設置する。インターネットの環境を充実させる。新刊がすぐ図書館で読めるようにしたいという、今の新しい図書館では比較的当たり前にあるようなサービスはもちろんなんですけども、黒石市の観光客で外国人が来るのが多くなっているということなので、そのような様々な人にも対応出来るサービスにしたいなという意見が多かったです。

次に「デザイン」です。先ず外観なんですけども、黒石市のこみせにあった外観にして欲しい。また、ねぷたやよされなど黒石らしい外観がいい。普通の色んな方が入ってみたいと思うような外観がいいなど、黒石市の魅力を発信し、図書館という建物だけでなく、ＰＲ・観光・景観にも繋が

るような外観にしたいなという意見が多い感じでした。

こちらもデザインなんですけども、小さい子ども、大人、障害をもった方々に対応出来るようにという意見も多かったです。子ども達は、図書館の中を豪華な感じにしたら盛り上がると思うんですけど、障害のある子ども達にとって派手な装飾は集中力を欠いてしまう原因にもなるという意見があり、どんな方にも対応出来るデザインにするように、またバリアフリーなどもしっかり設置して、障害がある方も満足出来たり、体が不自由で移動するのが大変な高齢の方々にも対応出来るような施設、また、勉強スペースをしっかりと区切ったり、子どものコーナーを奥にすることにより、うるさくてもそれを抑えられる防音ガラスとかを設置することにより、遊ぶ人は遊ぶ、勉強する人は勉強するなどの役割をしっかりと分けることが出来る、というような意見がありました。

最後に「その他」なんですけれど、図書館を設置するにあたり、比較的小さい面積という意見がありました。しかし、予算とか黒石市はお金がないというのは分かっていますが、その中でも充実したサービスが欲しい。もっと市民からアンケートをとって、みんなの意見を合わせた図書館が欲しい。

また、遠くから来る人は何回も図書館に来れないと思うので、その方々にも対応する返却ポストを様々設置する。規模が小さくても他の市に負けない図書館にしたいという意見がありました。

自分達のグループは全員女性だったことから、小さい子どもから大人、高齢者、障害者、色んな人達に対応し、満足して帰れるような図書館にしたいなという意見が全体のまとめかなと思います。

【講評：生島准教授】

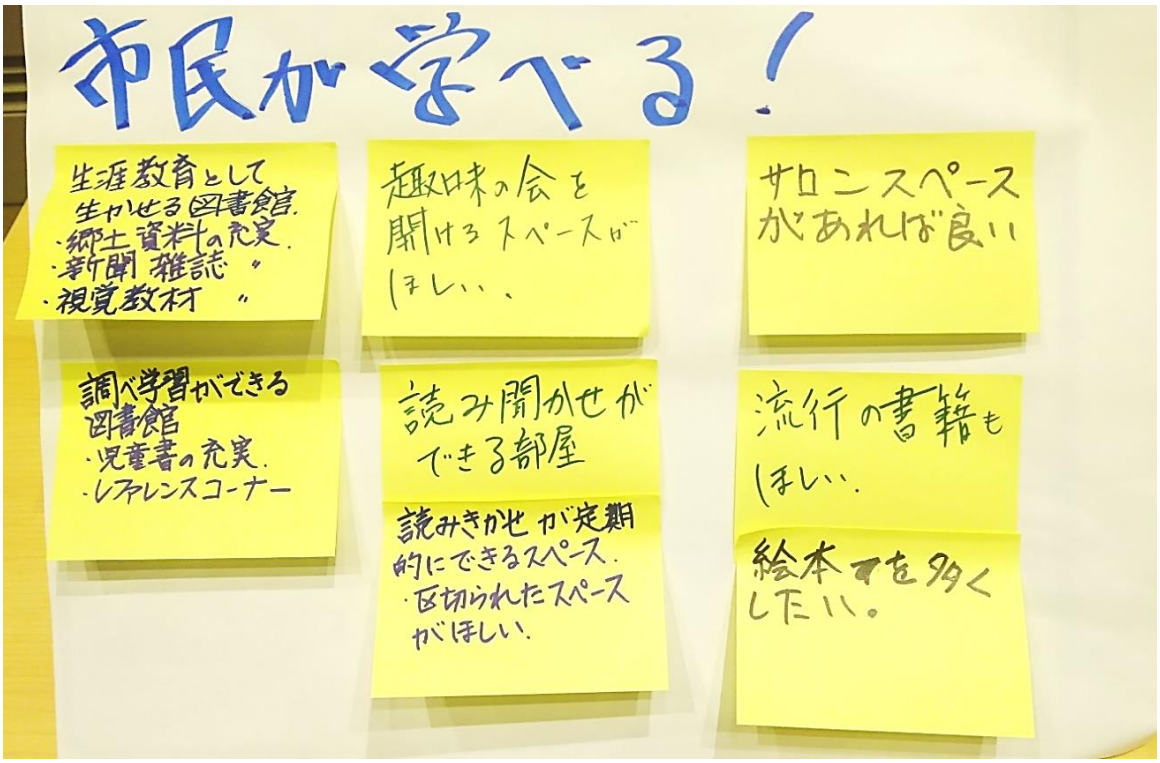
全員女性の方達のチームでしたね。非常に具体的なことが出されているなという印象でした。今までなかった視点としては、外国人の方、インバウンドで観光に来られている方もそうですけど、今、入管法が変わったりしたことで、これから働きに来る、居住する外国人も増えてくると思いますので、その視点というのもありますし、それによって、外国人の子ども達、働き手、日本語がわからない人達、そういう人達の視点というのもありますよね。

それから、赤本を置いて欲しいという話題がありましたけれども、進学とか勉強意欲とか学力をあげる図書館、こういう視点があったんじゃないかと思います。

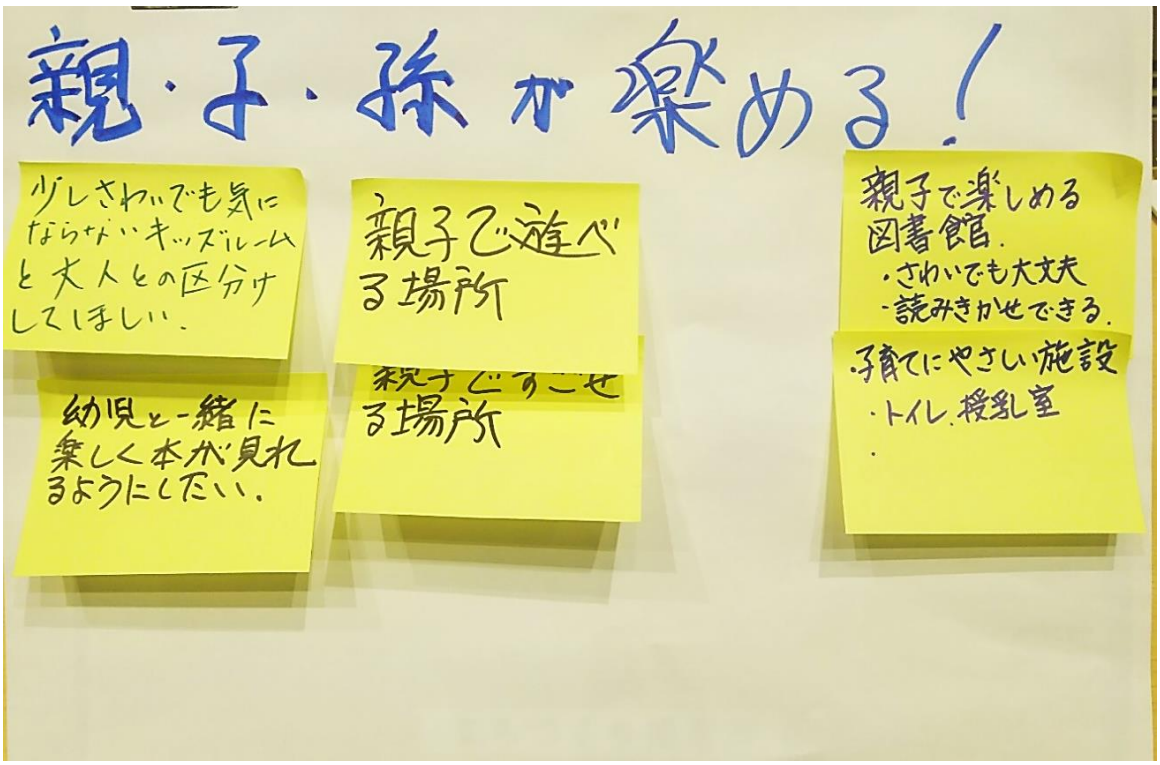
あと、デザインのところで、こみせの並びにマッチするという外観の視点もありつつ、中は静かな空間が必要だから無駄な装飾をなくすとか。一方で、ねぷたを貼って欲しいという話もあるし。でもやっぱり、ガチャガチャしてると集中出来ないというから、シンプルなものにして欲しい。この辺ですね、役割の分担というか、空間の区分けというのが必要なんじゃないかということの視点としていただきました。どうもありがとうございました。

⑤こけしグループ

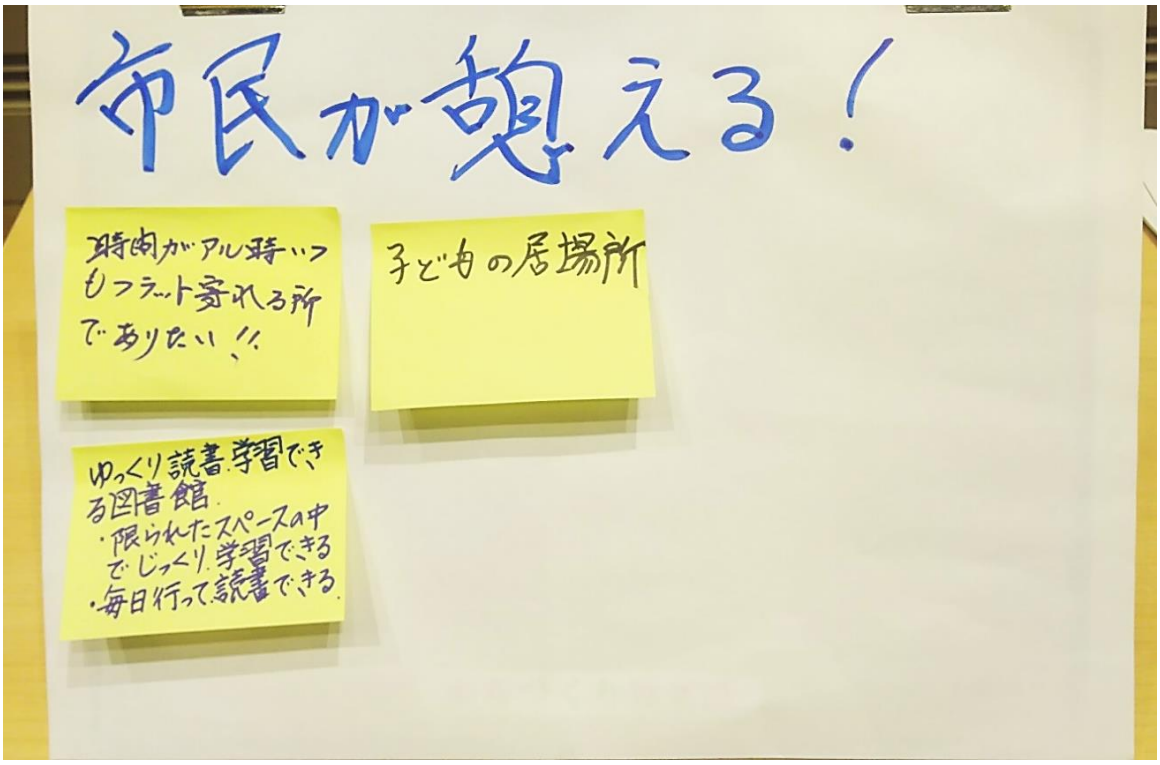
（1）市民が学べる！



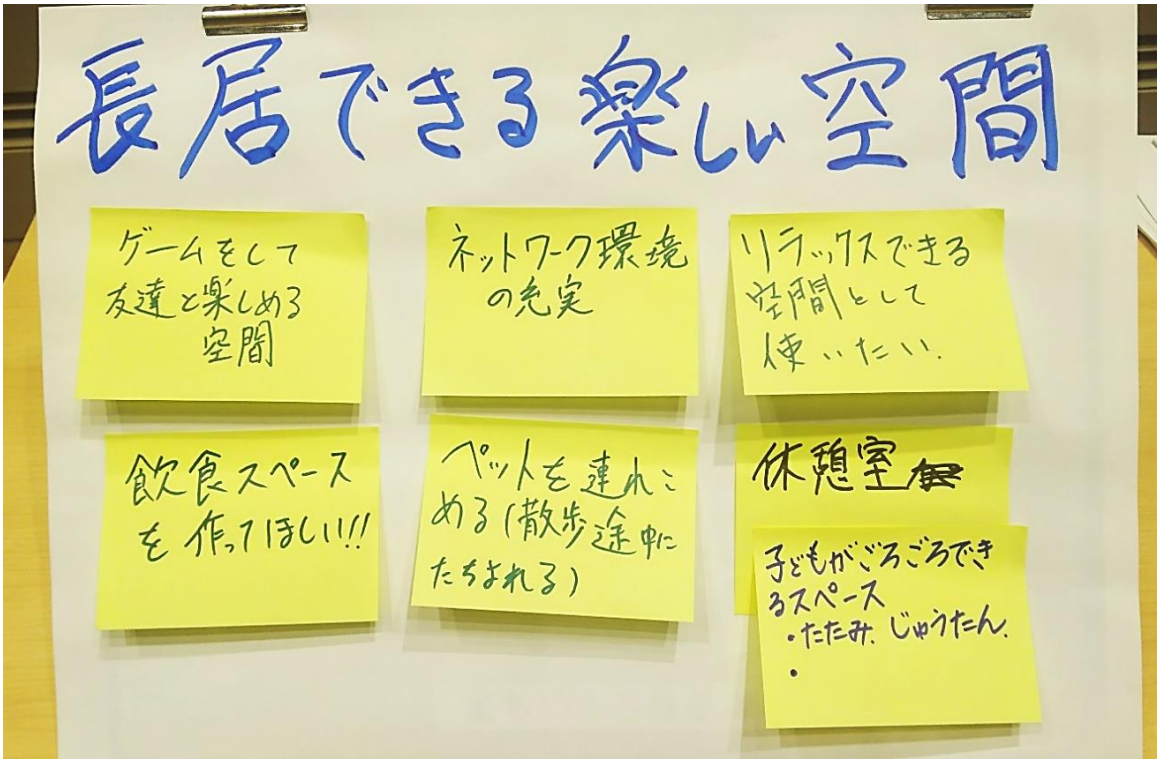
（2）親・子・孫が楽しめる！



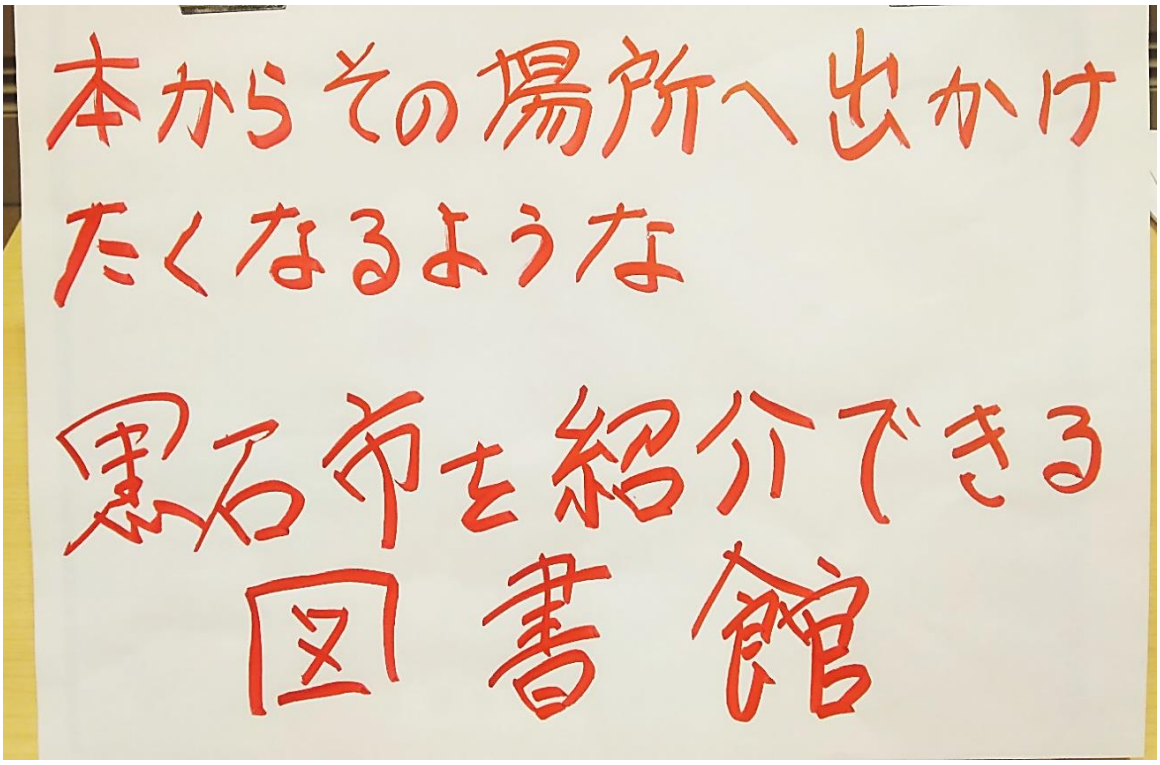
（3）市民が憩える！

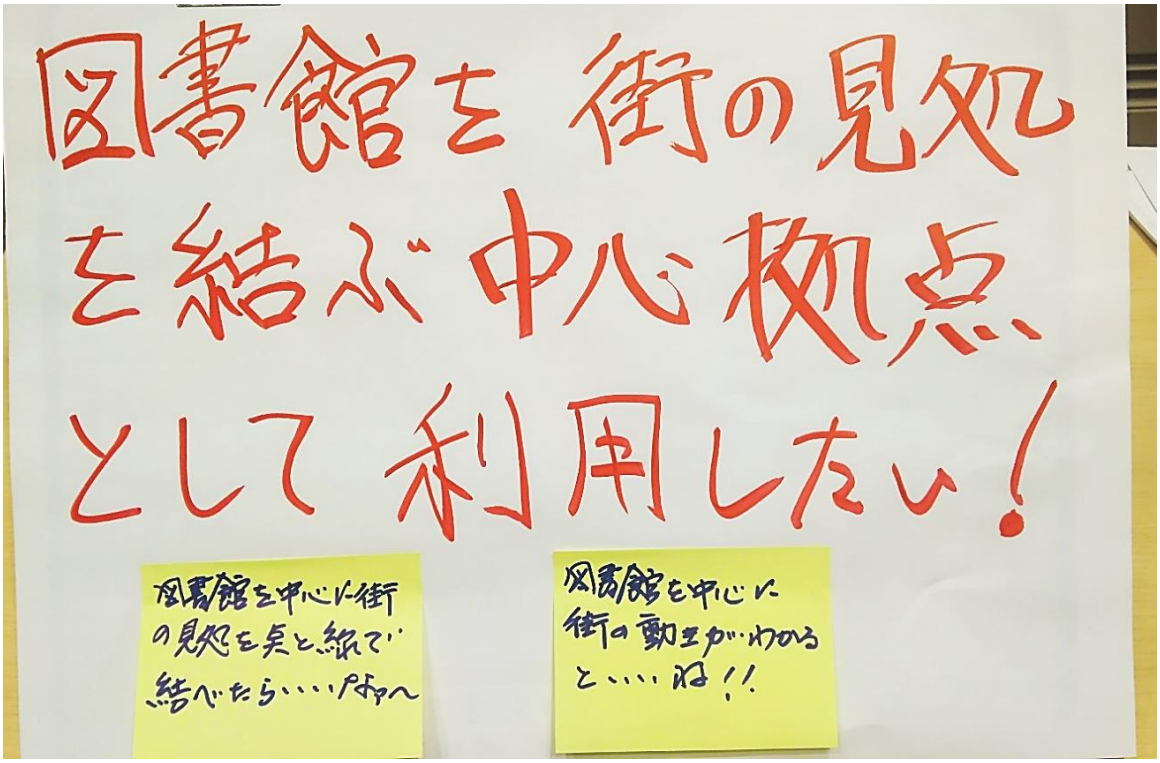


（4）長居できる楽しい空間



（5）街の見どころを結ぶ図書館





【こけしグループ発表】

私たちのグループですが、始めに構成員をご紹介させてもらいます。現役の高校生さんがおひとり。図書館関係の市民団体の方が２名、その他に図書ボランティアをされている方と、お孫さんに読み聞かせをされているおじいさま、イクジイされているということで大変幅広い年齢層の方が集ったグループになりました。

新しい図書館が出来たら、こう使いたいというのをテーマとして掲げたんですが、主に４つから５つほどこうやりたい、こうしていきたいという意見がありました。

１つ目が「学びたい！」ということ。先ず生涯教育として活かせる図書館。

郷土資料の充実、新聞・雑誌、視覚教材とあるんですが、今、人生１００年時代と言われてまして、本当に皆さんが長く生きられる時代になってきました。大人の方がいつまでも勉強が出来る環境として図書館があって欲しい、学びたい、という意見が一番最初に出てきた意見です。

それに伴って、生涯学習が出来る図書館。レファレンスコーナーがあったり、児童書があったり、というのが伴って、大人だけじゃなく、子ども達ももちろん勉強したいよね、読み聞かせの出来る部屋、スペースが欲しい。ということがあげられました。

あとは、それに伴って、絵本を多くして欲しいというのもありましたし、大人向けに趣味の会が開けるサロンスペースみたいなのがあればいいというのと、先程のグループにもあったかもしれませんが、流行の書籍、最新の雑誌とかがあったら、学べる環境、もっと学びたいという気持ちにそぐえるものになるのでは、という意見が出ました。

２つ目が「親・子・孫が楽しめる！」、とにかく楽しみたい、図書館で楽しんで過ごしたいという意見でした。先程のグループにもあったと思うんですけど、キッズルームと大人の方が勉強する場所、実体験のお話しで、１、２歳の子が絵本を借りたときに、本を選ぶときに若干ワチャワチャするんですけども、そのとき勉強されている大人の方がいると、お母さん、お父さんが本を借りづらいというか、直ぐ帰らないといけないような雰囲気があるというのもありましたので、子ども達とか親子で遊べる場所、実際に大人がいる場所と子どもがいる場所を物理的に離すのもそうだし、その辺が難しいのであれば防音室だったり、壁を作ってそれぞれの年齢で楽しめるような場所を作りたいというのがありました。

それに伴って、騒いでも大丈夫な読み聞かせの出来るスペース、子育てに優しい、お母さんが授乳が出来るスペースがあって欲しいだとか、男性も今、育児参加されていると思いますので、多目的トイレとかお子さんとオムツを換えることが出来るとか、そういった物理的なスペースもあれば、なおさら親子でも楽しめるんじゃないかという意見がありました。

次に「市民が憩える！」、とにかく憩いたい、ゆっくり学習出来る場所が欲しいということなんですけれど。

それに伴って「長居出来ること」に繋がると思うんですが、高校生の方から意見が出まして、例えば、ネットワーク環境が整うと友達とゲームをして楽しめる。長居出来る。やっぱりネットワーク環境が整うと中高生が結構集りたくなるらしいというのがあって。加えて、飲食するスペースを作って欲しい。というのも食べながら飲みながら、何かしら図書館に居られる、長居したいという意味があるんですけれど。

それとペット連れ、散歩中にちょっと、軽くプラッと立ち寄れるような図書館があると嬉しいかなというのがあったりだとか、休憩室、リラックスして図書館を使いたい。皆さんの話があったな

かでは、ちょっと休憩室がある、隣の部屋とかがあって、靴を脱いで、例えばお子さんとかとゴローンと寝転がりながら、リラックスしたような空間の中で憩えるような空間があると、図書館に長居して楽しく過ごせるのかなという意見があげられていました。

最後にですけども、図書館を中心市街地の見どころとして、他のグループにもあったと思いますけれども、黒石の郷土ご紹介という部分を設けて、例えば、こみせこういうところあります。こけし館・伝承工芸館に行けば、こういうものがあります。黒石の魅力のものを一挙に集めたところを紹介することによって、図書館を街の見どころの中心拠点として活用することによって、図書館以外の観光施設、観光拠点、黒石の魅力というものを、点と点を結ぶような繋がりをつくるような図書館。本からその場所へ出かけたくなるような、黒石の中心として、黒石を紹介出来るような図書館をつくっていけたら良いんじゃないかという意見がこけしグループから出ました。

【講評：生島准教授】

八戸のポータルミュージアム「はっち」にも正にこの機能、ここから港とポータルミュージアムで繋がっているよ、市内に出て行けるよ。その拠点というコンセプトでつくられています。本当に参考になるようなご意見じゃないかと思います。

あと、具体的な機能というか空間として、授乳室だとか、畳の部屋とかいうのが出ていたのが、このグループのポイントかなと。

あと、グループ通して今までずっと出ていましたけど、色んな新聞について。今、ご家庭でも新聞を取っていない人達多いです。大学生の中でみてると、１人暮らしで取っていないじゃなくて、家で取っていないといわれて、困ったなと私も思うんです。就職活動するのに新聞読みなさい、しかも複数読みなさいというのは、図書館で就活出来るというのは、とても大事だと思います。どうもありがとうございました。

○まとめ（全体講評）

【アドバイザー：青森県建築士会南黒支部　野呂氏】

皆さん、お疲れ様でした。今日は建築の方の質問はなかったんですけれども、皆さんの忌憚のないたくさんの意見が出まして、とても有意義なワークショップになったのではないかと思います。

今日、回ってますと私も共感するような意見がたくさんありました。そしてグループは違うんですけれども、同じような意見もたくさんありました。これらの意見をまとめることによって、素晴らしい図書館が出来ていくんだろうなという気がします。

ただ、ちょっと疑問に思ったのが、図書館の機能と公民館の機能、ちょっとまだ重複してるところがあるので、そこを考えなきゃならないのかなという感じは受けました。ただ、皆さんの情熱を感じる素晴らしい時間を過ごさせてもらいました。ありがとうございました。

【アドバイザー：図書館流通センター　久保氏】

皆様、本日はどうもお疲れ様でした。私も、皆様のお席を回らせていただきながらお話しをしておりました。

図書館の基本的な機能としては、資料を収集整理するというところになるかと思うんですけど、図書館法、図書館サービスの規定している法律がありまして、その第３条に、どういうサービスを提供するか規定されていて「読書会・研究会・鑑賞会・映写会・資料展示会等を主催し、及びこれらの開催を奨励すること」ということなんです。言ってみれば、何でもありなんですね。社会情勢が目まぐるしく変わっていくなかで、図書館が提供するサービスも変わっていかないといけないと思いますし。

そういったなかで皆様から出されたご意見の中でも、外国人の方々にどういう対応が出来るのかとかですね。子育て世代、中高生、私も含めて中年の居場所ということで、図書館の期待される役割が、公共施設の中でも集客機能のある施設ですから、高くなってると思いますし。ハード、建物に関すること。サービス、ソフトですね。皆さんの有意義な面白い視点、黒石市らしいというところが大きいかと思うんですけれども、今日いただけたと思っています。

今後の検討の中でどういう形で具現化出来るのか、検討の材料としたい、非常に多くのアイデアをいただいたと私自身は思っております。ありがとうございました。

【コーディネーター：生島准教授】

皆さんお疲れ様でした。正直、今日意見が出るか不安だったんですけれど、本当にたくさんの意見が出ました。

ワークショップは作業場であり、これが皆さんの作品になっていく、それが図書館だと思うんです。図書館が出来たあとに、それを皆さんの暮らしの中でワーク、つまり働いて機能していく図書館に皆さんがしていくことも考えていただきたい。

そのためには、それぞれ皆さんが図書館についてちょっとアンテナを張っていただいて、色んな自治体の図書館に行ってみてもらうとか、情報を集めてもらう。そして、黒石市の図書館がどうだったらいいだろうかって、動きなどが新聞に載ったり情報発信されると思います。チェックしたりしていきながら、引き続き図書館づくりにご参加していただければいいなっていうふうに思っています。

１０月にもう１回、より深まった議論をワークショップしていこうと企画化されてるということで、皆さん今日、お１人ずついらしてるかもしれないですが、５人ぐらいずつ連れてきてもらえますか。ご家族でいらしていただいてもよろしいですし、お子さん連れてきていただいてもいいですし。本当に色んな年代の方達の視点って大事だってことがお分かりいただけると思いますので、そういう意味では、１人じゃなくて、２人じゃなくて、５人で来ていただければと思います。

今日は、本当にお疲れさまでした。